京城日報

廿五日夕刊

本紙定價 一部金三錢五厘 一ヶ月金七十五錢
廣告料 五號活字一行金七拾錢
發行兼編輯人 奧田直毅
印刷人 小川三之介
發行所 京城太平通一丁目 合資會社 京城日報社

參議院の米支借款承認

參議院秘密會は廿四日大多數を以て米支借款契約を承認せり（北京特電）

カール第一世と稱す

維也納來電＝新墺皇帝はカール第一世と稱する事となれり新皇帝は詔勅を發し最後の勝利を得る迄戰爭を繼續すべく速かに名譽ある平和の克復を希望する旨を國民に告げたり（紐育電報）

駐希の四敵國使臣退去

希臘司法大臣の辭職

雅典來電＝希臘駐在四敵國使臣領事館員及び獨墺考古學會理事等は退去せしめられたり（朝刊電報參照）彼等は其出發を二十五日迄延期せん事を要求したるも拒絶せられたり希臘國司法大臣は内閣が聯合國側との誤解を防ぐ能はざりしとの理由にて辭職せり（倫敦電報）

モナスチール北方の戰鬪

サロニカ來電＝モナスチール北方に於ける戰鬪は依然繼續せられ聯合軍は迅速に新陣地を占領しつゝあり（倫敦電報）

大浦氏旅行中止

大浦兼武氏は豫て南米視察の途に上る筈なりしが本期議會の形勢險惡の兆ありとなし之れを中止して憲政會の黒幕となり指揮す可しと傳へらる（東京電報）

犬養總務の言明

廿五日和歌山國民黨支部大會に於て同黨總務犬養毅氏は本期議會に於ては現内閣彈劾案を提出す可しと言明せりとの報あり（東京電報）

議會解散の決心

政府は既に議會解散を決心せりと（東京電報）

堤上院議員辭職

貴族院議員男爵堤正誼氏は辭表を提出せしが近回御裁可ありたるを以て近く是が補缺選擧を行ふ可し（東京電報）

鈴木代議士歸東

愛國生命保險會社長代議士鈴木萬次郎氏は二十四日午後七時著列車にて來釜同八時三十分解纜の高麗丸にて當地通過歸東したり（釜山特電）

安藝大佐通過

前駐剳軍高級參謀陸軍步兵大佐安藝晋氏は二十四日午後七時著同八時四十分解纜の連絡船高麗丸にて當地通過京都伏見聯隊赴任の途に就けり（釜山特電）

農業技官會同

總督府にては二十七日より十二月三日まで各道農業技術官を召集第二會議室に於て農業技術官會同を開催の事となれり其の日程左の如し

二十七日 午前諮問事項答申 午後同上
二十八日 午前同前 午後同前
二十九日 午前訓示指示 午後諮問事項協定
三十日 午前諮問事項協定 午後同上
一日 協議事項協定
二日 勸業模範場視察
三日 勸業模範場支場視察

因に會議は毎日午前九時三十分より午後四時までにして小原農商工部長官之を統裁す可く出席者は各道農業技師水原模範場技師等二十餘名の外總督府各部局關係高等官列席の筈

獻上煙草

謹製に著手す

總督府專賣課にては又復畏き邊りの御思召に依り第二回朝鮮産葉煙草を獻上す可く昨今其の準備中なりしは本紙既報の如くなるが、同課にては諸般の準備全く整頓せるを以て中樞院專賣課分室に於て岡田技師以下三名の從事員潔齋の下に二十三日より原料の葉選に著手せり、之れを經て裁刻を了り卷上に著手するは十二月十日の頃なる可く一先づ數種を試製せる後其の一種を採りて約三千本を謹製し夫れより更に二千本を選みて十二月下旬までに獻納の手續を了はる豫定なり

寺島伯爵入京

露都訪問貴族院議員團の團長寺島伯は露都よりの歸途滿洲視察中の處廿四日夜十一時滿鮮直通列車にて著京南大門驛には三井物産の高野氏池上要吉氏其他鹿兒島縣人多數出迎ひにて直に朝鮮ホテルに投宿二十五日午前八時高野、池上兩氏の案内にて南大門市場を視察したる後山縣政務總監を訪問し次で南山公園總督府、高等普通學校、工業傳習所、昌德宮、慶熙宮製糸場、三井物産等を視察したるが伯は二十六日朝八時三十分南大門驛發の列車にて歸東す可し

特別議員任命

京城商業會議所の特別評議員たりし吉原三郎、勝田主計の兩氏辭任につき總督府にては其後任者として美濃部俊吉石塚英藏の兩氏を任命することゝなり二十四日小原農商工部長官より任命の通牒を發したる右に由り京城商業會議所にては二十五日夫々會員に對して通知する處ありたるが追て總會召集の機會に於て報告すべしと

持地局長歸任

去月來北海道竝に土木事業視察の爲め元山、永興に出張中なりし土木局持地六三郎氏は二十五日朝元山發同夜南大門驛著汽車にて歸任す

藤川平北長官著任

新任平安北道長官藤川利三郎氏は二十四日午前十時十三分列車にて新義州驛著齋藤營林廠長深川府尹今川營林廠技師寺尾稅關長寺本警務署長等を初め重なる官民小學校生徒等無慮數百名の出迎を受けて同驛待合室に入り此處にて重立たる官民と接見し同十一時發自動車にて出迎の松本第三部長を隨へ義州へ向け出發赴任したり（新義州）

袮田忠南警務部長

廣島憲兵分隊長より忠淸南道警務部長兼公州憲兵隊長に轉任を命ぜられたる憲兵中佐袮田長平氏は來る三十日御用船安平丸にて來鮮釜山を經て赴任の筈なり（釜山）

有賀時永氏送別會

有賀時永兩氏の爲の送別會は二十四日午後六時半より花月に於て開會、來會者主賓の外松永長官兪參與官入澤第一部長限部警務部長金谷府尹深尾第二部長其他事務官技師道府の職員百餘名にして盛會なりき

露領視察報告會

京城商業會議所にては曩に露領に出張中なりし書記長大村友之丞氏のため總會を開會し報告會を開くことゝなり居たるも更に一般會員の來聽をも許すことゝなり來る二十七日午後六時より同所樓上に於て報告會を開會すべしと

中村鮮銀局長著任

松田銀行監督役より鮮銀檢査局長に轉ぜる中村光吉氏は廿二日著任せり

熊島判事逝く

曩に新義州法院支廳より仁川に轉勤を命ぜられ赴任に先ち宿痾に重態となり其まゝ新義州病院入院中なりし判事法學士熊島榮作氏は二十二日午後五時遂に逝去し二十四日本願寺に於て葬儀を執行せり其より前病氣危篤の報あるや陞叙等の恩命に接したりと因に同氏は年齡僅に三十一前途春秋に富めることとて何人も計を痛惜せり（新義州）

新聞大會閉會

全鮮新聞經營者大會は二十五日も前日同樣朝鮮ホテルに於て開會し提案事項に關し附議する所あり正午十二時を以て閉會せり

三會社の招宴

朝郵東拓煙草三井物産の三會社主催となり二十五日午後六時より千代本樓に於て入京中の全鮮新聞經營者及在京記者團を招待せり

鮮滿直通列車遲延

廿四日夜南大門通過の鮮滿直通列車第二百二號は京義鐵道線路の故障の爲定時八時五十分より二時間延著發せり

兩港滯貨の疏通を奈何

朝郵は一船配航に決す 然かも滯貨の一部を運得るのみ

吉田朝郵專務談

釜山群山兩港に於ける穀類堆貨の輸送に付船腹の斡旋を兩地方より頻々當會社に交渉され當局者亦出來得る限り配船の事を指示し來るあり事實堆貨穀類の處分は頗る急要の問題にて付會社にては現在自由航路の配船に付諸種の考查を費やせし結果阪神航路（現就航船三隻）より一千噸級船二隻を割いて十二月上旬釜山より大阪へ一回十二月中旬同じく釜山より大阪へ直航一回並に月上旬群山より大阪へ一回中旬同じく群山より大阪直航一回合計釜山及び群山より大阪航路を四回開航する事となりしが汽船は船繰の都合上未だ確定せざるも多分第二鐵嶺丸を釜山に忠淸丸を群山に入港せしむべく此の船腹にて十二月中兩港より約二萬五千石の穀類を輸送し得べし素より之れ兩港滯貨の全部より見れば其の一小部分に過ぎざるべきも朝鮮郵船として今日之れ以上の船繰を行ふ事は殆んど絕對に不可能なり、成程高價の傭船料を仕拂へば內地よりのチャーター不可能に非ざれど今日の所噸十圓以下にては交渉に應ずる內地船主なく又噸十圓以上のチャーター料に匹敵する運賃を仕拂ひては目下の相場より見て到底朝鮮米の內地移出は採算の餘地なく釜群兩港當業者は未だこゝ迄の意氣込みは之れなきが如し

半島財界に惡影響甚し

若し速かに滯貨を處分せざれば

木村鮮銀理事談

南鮮各港に於ける內地行き穀類堆貨の輸送は刻下の半島財界にとり焦眉の急を要する問題にて其の處分延滯の金融經濟上に及ぼす惡影響は實に甚大なるものあり唯▲予の不審に堪へざるは各港堆貨山積の狀を現出する今日迄に何故各方面にて相當準備救急の方法を執らざりしやと云ふ點にあり、海運界の船腹の不足甚しく而して鮮米の豐作見込確實にして移出能力を有する米の少なからざると船稅關係等より推測する時當然從來の船腹を以てして目下の狀態を現出するは自明の理たるなり乃ち朝鮮沿岸航路受命者たる朝郵の自由航路に若干の船腹を繰合はせしむるか南鮮當業者に船のチャーターを斡旋するか但しは又關釜連絡船貨物輸送力の增大を企圖するか何にせよ何等かの方法により堆貨窮狀の發を今日の如く大ならしむるを避けざる可らざりし也唯此の準備に及ばず事態茲に至りし以上其の▲救治策は最善を盡して船腹を見出し其の內地輸送を圖るの外なく又船腹のみに言議せず例へば湖南線方面より比較的船腹を見出すに安易なる釜山へ廻送すべき穀類の鐵道輸送力も大に缺乏し居るに非ずやと信ぜらるゝ節あり此點鐵道局の努力を希望せざるを得ず斯くて堆貨の金融上に及ぼす惡影響を數ふれば二三にして足らざるも要するに荷動き活潑ならざれば金融は梗塞され商人は資金の運轉に大苦痛あり銀行の信用大なる當業者も堆貨を堆貨としてそれ以上に多大の資金の貸附を得て米豆の買出しを試ろむる如きは其の金利の損失のみにても少額ならず顯著鮮銀券の膨脹に膨脹を重ね四千萬圓臺を突破せし如き其の需要原因は堆貨船腹不足による▲金融の梗塞にありと見るを得べし更に商人としては先約品の受渡し不實行による損失、倉敷料荷痛みの被害若いては納稅其他の出來秋決濟資金を要する地方農村の金融圓滑を缺がしむる等を主なるものとすべし唯米價が目下の所前途强含みなるは聊さか慰するに足るも萬一低落の傾きある際なりとせんか其の慘狀は蓋し意想の外ならん、予等は其の適當の堆貨處分策の出で來らん事を希望して止まざるなり

湖南飛脚

鯨洋生

□論山より 夕著朝發、且に湖西を踏破し、暮は湖南に宿る此の電信的旅行の、敢て容易なるは、即ち交通機關の完備を證明するもの也。而して旅行線の距離を短縮するものは、自動車にして、之を巧みに利用せば、著しく、殆んど時間空費の如きなし、星を戴て公州入りをなし、百濟の古跡を問ふ閑をも有せず、上林新長官を迎へたる公州は、前小原長官時代と等しく、市況盛也。錦江の流は、今古異らず、城山の綠翠、鳳山の雅望、曾遊時と變せずと雖も公州は新展して、未だ休まざる也。倉皇裝を了て、豫定の通り論山に入る。公州論山間の道路は、滿州「公州間より好し。鷄龍山の麓を走る、自動車の爆音は、硏して勇ましとも勇まし山間能く耕されて、雉群搖々遊飛するを見る。論山に近くに從て、一望頓に展け、大原野の中を突進す。此邊秒頭未だ黃を點せず、綠葉風に翻り、路傍の小孩半裸躰なるものあり。此日朝鮮晴の碧空高く、鴻雁數行南に行くを仰ぐ。（二十三日）

□光州より 鐵車論山を發し江景大平野中を走破す、稻禾は既に收穫され、萬頃の田畝、茫々際限を知らず、錦江は帶の如く、遠山雲の如し、鐵車走る事速ならず江景、其他各驛頭には、籾移出せらるべき新穀山積し、活氣滿つ。此邊水禽多く、群飛するもの夥し、穀なる丘阜には矮松繁茂し、遠近の農家には、內地人の姿を見る。此日朝鮮晴の好天氣、殊に暖にして、京城とは約五六度以上の差あるべし。松汀里より直に、自動車を驅せて、光州に入る、三里の道路坦々として、路傍の胡蘿、白楊は綠に、黃を點ずるもの少し。光州川の長橋は、全南第一の稱あるだけ百足の如く、清流を橫斷す。（廿三日）

釜山

▲阪神航路延長要求 既報の如く釜山商業會議所は釜山貿易商の希望を代表して朝鮮郵船會社釜山支店へ現在停滯せる貨物を敏活に輸送を計らんが爲め從來の門司航路を阪神に延長せられんことを要請せしに對し朝鮮郵船釜山支店長石垣氏は廿日釜山の重なる貿易商と會見し事情を聽取したる結果廿一日午前十時卅分急行列車にて京城本社と商議の爲入京したるが群山に於ても釜山同樣の狀態にて既に數日前貿易業者數名京城に赴き總督府に請ふて朝鮮郵船の群山回航を迫りつゝある趣なるを洩れ聞きたる釜山の米穀商は廿一日午前十一時より大廳町穀物市場樓上に集會し協議の結果朝鮮郵船が釜山當業者の希望を容れ阪神迄航路を延長せらるゝに於ては或る一定の條件の下に責任を負ひて出荷し且つ內地輸送を依託すべく申合せをしたりと▲關釜專用貨物船 鐵道院に於て關釜間專用貨物船として傭船したる御嶽丸（直江津商船會社持船噸數九百八十五噸）は愈々二十一日正午釜山に入港貨物積入中なるが廿二日出港より當分同航路に就航する筈なり▲立木の拂下 慶尙南道東萊郡左耳面金井山道模範林立木赤松四千六百三十八本一千五百〇貳尺締を拂下げらるべく本月三十日正午東萊郡衙に於て入札を施行の筈▲高橋氏出發 朝鮮起業株式會社常務取締役高橋克親氏は總會準備の爲め二十五日午後解纜の連絡船にて內地へ向け出發したり▲石垣朝郵支店長 釜山に於ける停滯貨物輸送問題に付き本社と打合せの爲め京城に赴き居たる朝郵釜山支店長石垣氏は二十五日午前五時四十分著列車にて歸釜の筈なりと▲高女學則認可 釜山公立高等女學校は學則を變更し一箇年程度の補習科を設置の件は曩に組合會に於て決議し其筋へ許可申請中の處此程認可せられしと

仁川

▲稅關貨物取扱人注意 仁川稅關にては二十四日午後七時より樓上會議室に稅關貨物取扱人を召集同の上貨物取扱に關する諸種の注意をなしたり▲伊藤敎諭陞進 仁川公立商業學校長事務取扱なりし伊藤最一氏は十八日附を以て奏任官に昇進し校長に任ぜられたり▲保健組合解散式 仁川保健組合にては二十五日午後二時組合事務所に於て解散式を行ふ由なるが同會の創立は大正二年八月十三日にして爾來屠獸場の經營により生ずる利益金を以て衛生上の諸施設及び施療事業を營み貢獻する處大なりしが本年九月仁川府廳に引繼ぎたる者にて會長丁致、副會長丁禧朝の兩氏の如きは夙に同會の爲めに獻身的努力をなしたる外港務醫官壬生一夫氏も又進んで患者診療の事を掌り同會の事業を助けたるなど特筆大書す可き者ありたり

新義州

▲增設師團建築用材 營林廠にては目下註文を受け居る朝鮮增設師團建築用材は其數量約八萬尺締にして其價格は是を規定の普通直段にすれば五十六萬圓にも上るものなるが同設師用材は今后六年間每年同一數量の註文ある譯なりと▲職工宿舍官給 營林廠にては其の常用する鮮人支那人職工の爲め過般來七棟の宿舍新築中なりし處已に殆ど竣成せるを以て漸次移住せしめつゝあり由來鮮支人職工は動もすれば缺勤するの傾きありて一人の缺勤は或機械に共力從事する數名の職工をして相共に休業せしむるが如き已むを得ざるの結果を見るが爲めに其弊害を除き且つ彼等をして比較的淸潔なる宿舍に住せしめ因て以て其心身を慰安せしめんとする目的を以て宿舍の官給を決行するに至れるもの、由なり蓋し現廠長の同廠經營に關する細心なる注意の一端を表現せるものなるべし▲齋藤廠長の催宴 齋藤營林廠長は目下會議の爲め來新せる各出張所長の爲め兼ては折柄來新せる總督府山林課小泉技師東京大林區署田中技師招待の爲め二十三日午後七時より鐵道ホテルに於て晩餐會を催し同時に安東縣採木公司の主なる人々並に安義間木材業者中の有力者をも招待したるが主客四十餘名歡を盡して散會したるは同十時頃なり此晩餐會も同廠長の主義に從ひ一切酒類を用ゐず地方稀に見る淸らかなる催しなりき

□旅客携帶の獵銃 釜山水上警察署に於て轉移入を證明せられし旅客攜帶の獵銃は九月一日より十一月廿日迄に一百十三挺なりと

人事往來

▲石井豐吉氏（慶南道技師） 二十五日朝入京不知火へ
▲向坂淺三郎氏（水原模範場技師）▲武內道氏（慶南道技師）▲宮本致誠氏（忠北道技師）▲津村哲四郎氏（黃海道技師） 同上浦尾へ
▲芳賀榮次郎氏（總督府醫院長） 二十五日午後五時十分南大門驛著列車にて元山より歸任
▲ケプトレル氏（京城露國副領事） 二十四日朝南大門驛著列車にて長崎より歸任
▲川上常郎氏（東拓理事） 二十四日西小門內前林理事社宅に入る
▲後藤直一氏（東京砲兵工廠技師） 二十五日龍山鐵道局工場を觀察す
▲小西和氏（代議士） 二十四日夜南大門驛通過新義州へ
▲野田卯太郎氏（前東拓副總裁） 二十二日別府より總督府前瀧部岩田村へ歸る

明治公債株式會社
社員募集
京城黃金町 朝鮮支部
釜山幸町 朝鮮外事部
同 所 釜山出張所
太田榮町 太田出張所
群山曙町 群山出張所
淸津敷島町 淸津出張所
平壤本町 平壤出張所
元山仲町 元山出張所
大邱三笠町 大邱出張所
木浦大成洞 木浦出張所
咸興大和町 咸興派出所

模範 牛乳
純粹 醱酵 ヨーグルト
太正 搾乳 醫獸 場主
京城 東亞牧場
（電話二五三番）

御待兼ねの佛國式
珍品洋生賣出し
クリスマスケーキ
進物用一打半打箱入あり
京城本町二丁目 いろは菓子舖
（電話一四四六番）

品質の優秀は
絕對の信用を博し
最後の勝利を獲得す

攝津灘新庄家 宮內省御用酒 釀造元 若林合名會社
京城本町三丁目 特約店 山本富之助商店 電話五七五番

株券紛失廣告
當銀行第壹株券乙第參號二至ル株券第乙第壹貳五號合計參枚株券名義拾株自大正五年八月拾四日付ヲ以テ利害關係者ハ右貳拾四日迄ニ申出ラルヘシ右期日以後ハ株券ハ無效トス
大正五年拾壹月貳拾四日
株式會社 朝鮮商業銀行

購買入札
一、四分ノ三時亞鉛引瓦斯管外三點
右購買ノ詳細ハ大正五年十一月廿五日以後ノ朝鮮總督府官報ヲ見ルヘシ
大正五年十一月廿五日
京畿道

物品購買公告
一、精白米十八石五斗外六十八品
此入札保證金ハ各自入札金高ノ百分ノ五以上
入札者ハ府內ニ於テ國稅、地方費、學校組合費年額拾圓以上ヲ納ムル者ニシテ一年以上斯業ニ從事スル者ニ限ル
右入札ハ大正五年十二月六日京城府條例第二號ニ依リ執行ス入札希望ノ者ハ本府ニ就キ品名數量等熟覽ノ上十二月二十七日午前十時ヨリ十一時迄ニ入札スヘシ
右會同ノ上即時開札ス
此契約ハ朝鮮總督府府尹金谷充擔任
大正五年十一月廿一日
京城府

白兵戰は我戰術の精華

古今渝りなき戰略要點

特別大演習を陪觀して＝立花第十九師團長談

今年の特別大演習は南北兩軍共に非常な好成績を示したやうである、從來の大演習ではあれだけ豫定の時間に於て豫定の場所に出て來るといふ事が能き難いものであつたが今年はそれを立派に遂行したのである、これは兩軍共に

▽戰術の原則に 則つて行動したためであつて軍司令官に其の人を得た結果であらうきた大迫、井口兩軍司令官に隷屬せる兩軍師團長の顏觸を見ると南軍の柴（勝三郎）といひ明石といひまた北軍の小原といひ皆我輩共と同じく大迫、井口兩將軍に就いて學んだ人達である、故に觀樣によつては二人の先生が敵味方となつて部下に

▽むかしの生徒 を統率したといふ事にもなる、兩軍の行動はこれをわれ〳〵立人の立場から視るといろ〳〵な批評もあらうし注文もあらうがそれは我輩を軍司令官とした時のはなしで素人に語つても解つたものではない、併し北軍の井口將軍はわれ〳〵の先生であつて且つ有數な軍略家であるしまた南軍の大迫將軍も立派な軍司令官である、將軍は

▽大學出身者で は無いけれども曾てメッケル將軍から其の鬼才を愛せられた程の人で曾てはわれ〳〵の兵學教官であつた、それに這回の演習で偉勳を樹てたのは兩軍の飛行機隊であるがこれは攻擊は兎に角偵察に於ては非常に有力な報告を齎らしたやうである、又最後の多々良川の決戰の如きも矢張り延元元年

▽足利尊氏など が據たときのやうに後ろの方には小倉方面の天險を扼する立花山があり前に多々良川と博多平地があるので白兵戰となればむかしも今も變りはない、たに我輩の先祖の立花宗茂のとか、いかにも宗茂はあの立花山に居つたのぢや、今でもあの山には梅岳寺といふのがあつて

▽宗茂の木像を 安置して居るがあんな戰爭に大切な場所を專門家は戰略要點と稱へて居る、次にまた演習第二日の筑後川右岸の遭遇戰の如きも戰略要點たるとには正平のむかしと變りはなく菊池武光が精兵二萬を率ゐて少貳大友六萬の大軍を擊破したのもあの寶滿川流域であつたのだ最後に兩軍白兵戰の屢々行はれんとしたとはこれは今日の

▽戰術の極意で あつて最後の決戰といふものは何うしても銃劍の突擊にあるといふのが日本軍隊の立前であるのぢや、元來この白兵戰で輸贏を爭ふといふことは一時ボアの戰術が旺んな頃は下らぬもの、やうに思はれた時代もあり且つ銃砲火の威力が猛烈となつては更に其の議論が旺んであつたがこれまで

▽日本軍が經驗 した數度の實戰ではどうしても此の白兵を用ふることが最後の勝敗の決するところとなつたのである

輝く戰跡

記念碑十七基

卅七八年戰役の當時屍を塡ね血潮を渉り肉彈又肉彈彼我入亂れて酸鼻を極めたる山も川も昔ながらに廢れ共今は殷々たる砲聲も聞ねず勇ましき喊聲も起らず

▲晩秋の風 小松を渡りて吹く處靜かに眠れる勇士等の功の如も輝きて新しき碑の默然として天に聳ゆるを見る是戰蹟保存會の事業として本年春より滿洲各地に工事に著手したる記念碑にて既に竣工せるもの旅順に十七個所高さは一丈乃至一丈五尺にして其形も山の姿附近の有樣等によりて一々異なる彼の

▲有名なる 東鷄冠山砲臺同第二堡壘ゴンドラチエンコ少將が戰死せる同北堡壘一戸堡壘盤龍山東堡壘同西堡壘同北堡壘敵兵兩三名になりて尚ほ我に抵抗したりと云ふ二龍山有名なる白襷隊を以つて突擊し坑道作業により

▲全堡壘を 顚覆したる松樹山同第四堡壘及び盤眼北方堡壘老虎溝山南山坡山大頂子山一六四高地攻城山火石嶺子の十七箇所は既に竣工せり遠近共汽車より之を仰ぎ見る事を得べく實に見事に出來したり尚關東州內の古戰場にして金州南山水師營望臺旅順港口記念碑等は未だ竣工の運びに到らざれども

▲來春まで には何れも嚴然たる姿を現はすべく世界の戰史に有名なる日露戰爭中乃木將軍の名と共に忘る可からざる旅順の山川は永久に名譽ある古戰場として輝くべく訪ね弔ふ人々も其山々の戰ひ樣を委しく窺ひ得て更に印象を深ふするを得と

六百健兒

曉霧を破つて

京城中學校の秋季大演習

漢陽の秋漸く老ひて冷氣益々加はらんとする月の二十五日京城中學の健兒六百名は

▣東小門外 一帶の地に秋期大演習を催ふせり、此日元山港に上陸したる北軍は鐵道輸送により逐次議政府（京元線）に下車しつゝ一方水原附近に兵力を集中中なる南軍の主力と倉洞附近に於て激戰中なりしが急を聞き來る南軍の一大隊は急遽京城を發して

▣元山街道 に沿ひ前進し敵（北軍）の右翼を加五里附近の高地に擊攘せんとす、雨か風か南軍の士氣天に沖するものあり、此の時に方り廿五日拂曉を期し東小門を通過したる同軍の前衛は逐次敵の尖兵を擊攘しつゝ加五里方面に前進したるに北軍の一部隊は既に植松里に達し其の斥候は李王職農場附近に

▣出沒して 南軍の戰機いよいよ熟せしが遂に南軍の精鋭は植松里高地に於て衝突せり、此日天晴くして密雲低く垂れ曉霧清涼里の平野を罩むる折柄植松里一帶の天地は漫々たる豆を煎る如き小銃の響きと怒濤岩に激する突擊の喊聲と相俟ち壯烈快絕なる大激戰を試み南軍方に

▣一大突擊 に轉せんとして休戰の喇叭は響き渡れり、然るに一方鐵道線路に沿ひて戰ひつゝある南軍の主力は逐次南軍不利の戰況に陷り南軍司令官は茲に植松里の支隊長に命じて軍を纛島方面に向ひ退却すべきを命じ往十里東部より新村高地（鐵道線路の側）に據つて南軍主力の後衞を命ず茲に於て

▣南軍支隊 は鍾岩里、安甘里を經て退却に移り北軍またこれを呼吸をもつかず急追擊し所々の森林、高地に於て猛烈なる戰鬪を交へしが午前十一時を期し南軍の一隊新村高地に陣地を占むると共に茲に一大持久防禦に移り勝ちほこれる北軍の猛進を阻止せんとす、茲に於いてか逐次北軍の到著を俟ち新村一帶の高地は兩軍龍攘虎搏の戰場と變じ北軍の突擊に次いで南軍一時に

▣逆襲に轉 じ茲に兩軍は一大白兵戰によつて決戰を試みんとし休戰の號音により止む、猶ほ兩軍六百の健兒は午後二時半校庭に於て分列式を試み柴崎校長の訓話に次いで岡村統裁官の講評ありしが兩軍共に上級五年生の指揮の下に勇壯活潑なる大野戰を試みた等は近來の快擧といふべし

◇北朝鮮の地震

仁川微動計感受

二十五日午前仁川觀測所の通知によれば二十五日午後十時二十三分龍岩浦測候所に於いて微弱なる地震を感じたとの報告ありたるが仁川測候所備付の自動計及び微動計にも感じたり然して該地震は震動の各部共極めて鮮明に記象せられたり右の記象に據れば十時二十三分三十一秒に於いて明瞭に初期微動を開始し十時二十四分二十三秒に至りて最大となり震幅〇、〇一四粍に及びしが震度急に微弱となり十時二十七分五十秒に至り靜止せる由、震源地は震動の狀況に依れば仁川より北方約百里なるべく蓋し平安北道沿岸附近の局部ならんと觀測せらる

二千米突

飛行機の高さ

谷田工兵大佐談

單葉飛行機でも若くば複葉飛行機でも小型の飛行機で獨逸のフオッカーといふ飛行機は單葉の

▽驅逐用 の飛行機として非常に八ケ間敷い飛行機でありますが之に對峙しまする爲めに佛蘭西や英國に於て複葉小型の飛行機を使つて居りますが矢張り百か百二十馬力位の發動機を使つて居ります

▽爆彈も 開戰の當初にだきましては現在の七十馬力飛行機と同じ樣に五十基乃至百基のを用ひました百基と云へば約二十六貫になりまして五十基が

▽十三貫 結り十三、四貫から二十四五貫までの爆彈を持つて出るのに過ぎなかつたのでありますが近來では五百基位までは持ち得る樣になつて居る五百基と申しますと百三十貫許りになります

▽約半噸 に相當し一發の飛行機が半噸の爆彈を持つて行くことが出來此多くの爆彈は攻擊用飛行機が使用する樣な現狀に至つたのであります之等の爆彈攻擊用飛行機も突如敵機に遭遇致しまして驅逐飛行機の

▽保護を 受け得る場合と出來ぬ場合とありますから自衞の爲めに機關銃若くば三十七ミリ位の火砲機關砲を備へる樣になつたのであります、それから高射砲の威力之に對し地面から飛行機を射つといふとは非常に

▽難儀で ありますが併しながら飛行機が盛んに用ひられる樣になりましたから隨つて空中を攻擊することが非常に研究されて小銃は固より高射砲と稱しまして今日では七珊半から十珊半位いの中徑の

▽非常に 高い角度を以て擊つことの出來る高射砲を調製しましたから飛行機はうか〳〵と低い所を步いて居ることは出來ないのである始めは一千米突の高さに昇ることが出來ましたなれば

▽敵の彈 を避けることが出來るといふことで一千米突位の高さで宜しいといふことに決定しまして此の間を飛んで居ります

▽飛行機 の低いのは八百米突高いのは一千三百米突位の程度の高さ以內に飛んで居ります歐羅巴戰場では今日二千米突以上でそれ以內を飛んで居るのは厶いません二千乃至三千米突といふのが

▽普通の 飛び方でありますそこで斯く一時間も要らなくて高く上らなければならぬといふ必要な條件が起りますので此れに就ては非常に飛行機屋が骨を折つたのであります七十馬力の飛行機は一千米突昇るのに

▽三十分 を要するとは開戰の初め頃獨逸も佛蘭西も同じ狀態でありましたが其後二三年の間に非常に進步致しまして今日歐羅巴では一千米突を大概七分から八分二千米突を上るのに二十四五分から三十分內外で優に

▽登ると が出來る樣な機體の改造が出來て居るので御座います卽ち一千米突位の高さで宜しいといふことに決定しまして此中に飛んで居ります

▽飛行機 の低いのは八百米突高いのは約二千四百尺位の高さに上ると

▽彈丸を 避けることが出來るが八百米突より低く飛ぶことは出來ない演習に當つて審判をするにも審判の規則から左樣云ふことが定めてあつたのである併し

▽戰爭中 に高射砲の段々良好なものが出來ましたので厶いますから其結果二千米突から三千米突位まで今日では上る樣になりました而して二千米突以下では如何しても敵彈を

▽避ける とが出來ぬ斯う云ふことになつて居りますけれども今七十馬力の飛行機でありますと二千米突の高さに上るのに一時間から以上要しますやうで

▽今回の 演習では左樣云ふ風に一時間以上も要つて二千米突以上に昇つて居りますと一方演習は濟んで了つて居りますから其半分位で宜しい

◉下著に五十圓 京畿道漣川郡中面橫山里農權重禧（五五）は十八日午後七時半頃同里弘見峙を通行中何者にか棍棒を以て頭部を亂打されたるより逃走したるに尙追跡を受けて强打されたるもの、如く卽死して打殪れたるより賊は同人携帶の財布を强奪して披見したるに無一文なる爲め件の財布は傍らに遺棄しあり所轄官憲にて檢證の結果同人の下著より五十圓入り居れる別の財布を發見したるが目下犯人嚴探中なりと

◉活辯の罪 大阪西區北堀江御池通り六番地生れ活動寫眞辯士鳥山眞次郎は曩に平壤歌舞伎座に出勤中同地旭町村上久吉に對し主人の使なりと僞り高貴織一反を掛買し之を曲げて遊興費に充て倚壽町白井よしより銀側懷中時計を借受け其足にて賑町遊廓に走り酒色代に預け居たるが被害者白井よしより彼の時計は旦那より拜領のものなれば至急返し呉れとの談判に左れば遊廓に抵當にしてあれば今現金三圓を貸呉れば取戻し來るべしとよしを欺き現金を受取り是又遊興に充てし事發覺平壤署の手に押へられ廿日檢事局へ送らる

◉代書人の詐僞 永登浦新上里居住李詰相（三六）は同地代書業崔某の事務員韓鏞元なるものと共謀し本年七月四日同事務所に於て同地姜某外二名の名義を冒用したる借用證書を拵へ之に僞造したる印章を押捺して同地居住の中村某より借用名義にて前後三回に八十六圓餘を詐取したる一件に就き李詰相は京城覆審法院に控訴中の處此程懲役八箇月の處分となれり

◉厭世自殺 高陽郡龍江面阿峴里安基成（三六）は數箇月前より重症の梅毒に罹り一向に平癒の模樣なきを悲觀し二十日重コロム酸を服用して自殺を遂げたり

◉猩紅熱 京城古市町四三塚田高明（四つ）は二十三日猩紅熱と診斷居宅は大消毒の上患者は順化院へ入院加療中なり

汗の力（一）

▽朝鮮滿洲露領へ出稼ぎの山東苦力の足あと

▽喰はず飲まず稼ぎ蓄める

金が年々千八百萬

九州に島原女があつて『國辱なんぞは何のその』と高唱して盛んに海外に發展する樣に山東省の苦力は

◆鐵鎖 に繫縛せられない奴隸となつて南北滿洲からシベリア浦鹽朝鮮等に出稼ぎして居る、其數は確か卅萬と註されて居るが、彼等の足跡至る處瘠确不毛の土地も茅萱茫々たる地も凡絕の忍耐力と野獸的の

◆勞働 に依つて拓かれざる無く耕やされざる無き有樣で、彼等が年々搬入する富は實に千七八百萬圓に上り、同省經濟界に於ける一大富源となつて居る、山東省の中でも登州府が苦力の本場で仁川港を經由して

◆浦鹽 及び鮮內各地に出稼ぎする者は殆んど總てが芝罘港から輸送さるゝ、登州府産の苦力で重に華僑交通公司の手に依つて各方面に送らるゝのである、船と言つても荷物同樣に日の目も通はぬ

◆船艙 內に四五百名も打ち込まれるのであるから大抵ならば人權蹂躙の廉で穩やかならぬ處を連中平不一つ言ふでも無く床の上にゴロ寢をしたり荷物に倚りかゝつたまゝダッスリ眠り込んだりして腹が空けば

◆携へ 來つたパンの屑でも嚙り、食ふに由ない場合は空腹のまゝで貧乏搖ぎもせずに辛へて居る、旅行中は汽車汽船の中で金を出して食事を攝るが如き不經濟な事はせず愈々堪らなくなつて始めて大枚數錢を投じて支那パンや

◆饅頭 を購ふて纔かに胃袋を慰めると言ふ始末であるから彼等が如何に蓄財の爲めに一切の慾望を虐たげて居るかゞ窺はれやう、仁川經由の苦力は本年の十月末日迄に二千八百人に達したが其大部分は鐵路元山を經て浦鹽に向ひ其他は元山の

◆奧地 や清津、城津等に旺まる者朝鮮の各都府近くで野菜を作るか漢江の架橋工事仁川の築港等に石工、人夫等である（つゞく）（仁川支局）

◉溫突の火事 二十四日午後八時四十分頃京城昌信洞三六五雜貨商林元根方より失火したるより京城常備消防隊出動朝鮮式溫突建築屋根を燒失したるのみにて約十分の後鎭火せり原因は煙草の吸殼より發火せしものなりと

讀者文藝（一等には五十錢の商品券を呈す）

▽謎『雲とかけて』

○麥もやしと解く心は飴（雨）の素 （先發一節） 平北龍岩浦 助 的

▲刺繡の半襟と解く心は浮き模樣（雨氣催ふ） 龍山 松 本

▲貧兒と解く心は雨の降る前（緖の振舞）に黑くなつて出てくる 龍山 岡本小草子

▲間拔け男と解く心は上の空でふーはり〳〵して居る 釜山 金子 風來

▲舵を失ひたる帆かけ船と解く心は風次第に漂ふ 釜山 山本 生

▲薄情者と解く心は間もなく振り（降り）出す 仁川 木 枯 生

▲昨今の支那政界と解く心は落付きが無い 安東縣 鐸 松 生

▣問題及び募集規定は欄外にあり

課題募集規程 ▲紙は端書又は型…

天氣 曇り後小雨 十一月廿六日

（稅務官醸造家の必携）

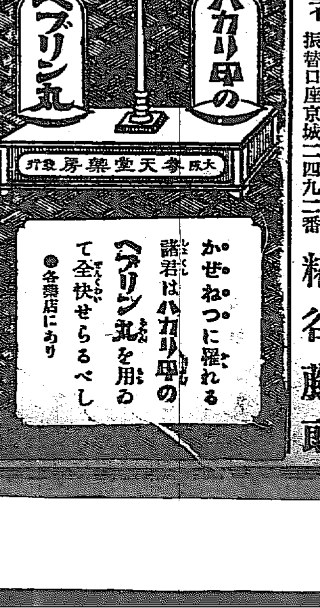
北村朝鮮總督府々事務官校閲 藤川度支部稅務課長序文 藤森辰治郎編

桶類及西洋樽計量法解析 全一册

附錄速算表 ポケット用定價五十錢（送料一部二錢）

本書は編者が十餘年間稅務官吏又は鑑定技手として奉職中實驗上得る所に依り各種容器の計量法を簡明に說述したるものにして他に此種の編纂せられたるものなく稅務官吏及醸造業者はポケット用必須の小册子なりとす殊に豫約に依り實費を以て希望者に配本せしも其の尙注文者尠からず故に編者の希望に依り更に增刷の上本年十二月末日迄申込者に對し實費三十五錢を以て配本することゝせり故に希望者は此機を逸せず御注文有之度右期限經過後は定價にあらざれば決して御需に應ぜざれば御諒知あらんことを乞ふ

發行者 京城明治町一丁目五十四番地 糀谷藤郎 電話番號九百十一番 振替口座京城二四九二番



▣家庭用必須品として好評を博したる

▣小供にても容易に使用される新案特許山本式

◎輕便味噌擂器……著荷

御使用の上にて御好評を希望致します

臨時出張販賣所 京城本町二丁目荒井旅館方（電話二八八七番） 支配人 前田嘉太郎 松前商會

▣右製作販賣權讓渡又は一手販賣特約の應相談 鹿兒島市高麗町四〇番地 御希望の方は至急御來談被下度候

優等清酒 三巴正宗 發賣元 京城府蓬萊町四丁目 三巴酒造場 電話長一〇六七番 振替口座六一八番 大田支店 電話長一二五番 平壤支店 電話因五一一番

資本金五百萬圓 頭取 安田善三郎

★株式會社百三十銀行京城支店 京城本町壹丁目 電話長五八番・一九四番 振替貯金京城一二三番

銀行一般の業務精々御便利に御取扱申候 爲換取組先は內地各方面並朝鮮樞要の地に有之候

內科 胃腸病 診察夜九時迄 京城本町一丁目 石川醫院 電話一二七九番

……の御返戻を受けたしと申出でたるも……別に證據もなければ其儘引取らしめ……深山石炭部の領收印を以て時計を詐……

●連絡船上陸客 廿四日午前 釜山入港高麗丸二等客……

冬と家庭
防寒方法の研究

●近頃一般家庭に廢物利用といふ事が云ひはやされる樣になつたのは誠に結構な現象です。禍も三年經てば、と申しますが紙屑一つでも納つて置きさへすればいつか役にたつ時が來ます。かう考へておきますと私共の日常生活に於て何一つとして捨ててもよいものはありません

●これから御家庭で行火をお用ひになることも多うございませう、行火には粉炭が一等よろしうございますそして上へ直接蒲團などかけてはたまりませんが一番よい方法はメリヤス襯衣の著ふるしの上部を切てその切り口を縫ひ合せ袋の樣にして すつぽりと行火の上へ被せると蒲團もずらないし、いたみもしないしまことに兩德用であります

●大人のズボン下の古くなつて股の邊の擦切れたのは上の方の切れた部分を切り去つてほつれない樣にくけ紐をつけさへすれば子供用に充分なりまず齒磨楊枝の古くなつたのは靴墨をつけるのに宜しうございますし下駄を洗ふのにも便利であります革手袋のぼろは小さく切つて幾重にも合せ裁縫用の針うけ指輪を拵へるとおあつらひ向です、

●次は防寒の事ですが男子よりも冷ひやすい婦人が簡單な仕度をして嚴冬を過すのは宜しくない事だと思ひます、なぜ日本の婦人は股引や猿股をしないでせう。これはまだ婦人用に便利なのが研究されてないのが原因でせうと思ひます、第一冷ねて衛生上にも宜しくないし特に風儀上いけない事だと思ひます、それから冬の肌著はメンフランが一番宜しからうと存じます、ホンフランは洗濯をするのに困りますし第一値段が最も不揃うございます、メリンスの小布を集めてこれをはぎ合せ脊中だけのものを拵へ紐をくツつけて簡單な胴著を作るとまことに暖かうございます

神社とお寺と教會

○西本願寺（若草町）二十六日午後一時より日曜講演あり尚同日より二十八日まで三日數……

○東本願寺（南山町）二十五日午後七時より土曜講話十時より日曜講演あり

○開教院（本町三）二十六日午前十時より日曜講話午後七時より日曜說教ある筈

○メソヂスト教會 二十六日午後二時より南大門通三監理教會に於て全國協同傳道和松野重太郎氏の『傳道說教』あり 尚同七時三十分より牧師館『旭町二』岡忍氏の『酒は非禁也』說教あり

○京城基督教會（南米倉町）午前十時禮拜說教『罪さきサマリヤ人』山本牧師午後七時半禮拜說教『信仰生活の發展』東分クリスチオン教會牧師松野菊太郎氏の說教あり

○日本基督教會 二十六日午前九時より日曜學校同十時より禮拜說教ありて全國協同傳道委員幹事松野菊太郎氏の說教午後七時より非口牧師の『神なくば』說教あり

△會のいろ〳〵▽

◉禁酒月次演說會 京城禁酒會にては二十六日午後七時半より旭町二丁目臨岡牧師方に於て岡忍氏の『酒は非禁なり』講話ある由

◉廣安眞從師歸京 豫て地方巡錫中なりし廣安眞從師は朝鮮開教總監の同氏は朝鮮開教監理事吉村立爾師と同件にて二十六日午前十一時四十五分南大門着列車にて歸京する筈

◉佐藤病院新築披露 仁川仲町佐藤病院主佐藤小五郎氏は同病院新築落成を機とし二十三日午後六時より龍頭に於て自祝宴を催したり來賓は仁川の有志及び婦人三百名にて定刻佐藤氏の挨拶に次いで祥行談となし終つて鎭海鮮銀支店長來賓を代表し淺井仁川支店長が發起人總代として祝詞を述べ夫れより宴を開き十時散會せり

長春夜話（二の二）
結氷
古道生

●結氷と いふのは結氷期のことを俗稱していふのである『此頃は景氣はどうだい』『結氷だからマルで仕方がありません』とは大工左官が結氷期中全く職を失した時の常套語である、長春を中心としての結氷は年に依つて多少は遲速があるが槪ね十一月中旬頃から翌年三月下旬頃までの間である、平均溫度を調べて見ると十一月が零下二、八であつて此時東京は一〇、八で京城は四、四である、三月が零下六、八であつて東京は六、八で京城が二、四である。又最も寒いのは長春では一月であるが、この平均溫度は零下一五、四であつて東京が二、八又京城は二月が最低で零下三、七である、昨年は近年にない寒さで一月中旬に零下三七、〇度を示したことがある、で此の結氷期間になると漆夏の風物は全く一變し眼界一點の木葉を見ることができないので眞に冬枯れの

●寂寞を 感ぜざるを得ない、この季節に依る變化は決して自然の景物ばかりでない人間の活動範圍が全く一變するのも面白い現象である、即ち閑していふと結氷に忙しい人は夏は閑散であつて夏期に多忙な職業は結氷には全く遊びになる 建築に關係する者などは結氷に休眠せねばならぬ通例であるが これは地下の氷おで基礎工事が全くできないのと戶外の職業が作業を許さないからである 然るに之に反して滿洲の大宗とも謂はれ殊に長春の生命である大豆その他の特產物を職業の材料とする連中になると冬期は血眼になつて活躍するが、夏になるとノンキに遊んでゐる、かくの如く活動と休眠との狀態が季節によつて二樣に行はれることになるの（先づ全部の人を云ふのではない）ので、ここに特殊な社會現象を生ずることになる 零下三十七度といへば 勿論寒いには相違ないが

●住ば都 で此の土地に居る人は決して寒いことを苦にしてはならない のみならず冬は却つて暖いといふ、京城や大連などではまだ冬はたしかに暖い、蓋し戶外に出でなる時間が少くて そして宅內は如何なる貧人でもストーブの備へのない處はないので、かくは感ずるのである、否々戶外の活動といへども地下氷結して車馬及び橇の交通自在なるに至ると農村と都市との間の往還は頗る頻繁となつて來て大道小路は橇るが如きものである、殊に河川氷上を利用する橇の交通の如きに至つては、實に一種の奇觀である

商況

債券現物特電 東京 二十四日出來値段（前日との比較） 一八二、〇〇

公債直取引 東京 二十四日出來値段（前日との比較） 九九、九〇 九九、九〇

深川在米特電 二十四日現在高 一四、七五 七三、六八 一〇、八五 〇二〇

東京期米特電 二十四日前場 一月限 七、七二 七、七〇 七、六三 七、六九

大阪株式特電 二十四日前場

大阪三品特電

大阪期米特電

下關期米特電 二十五日前場 一六、五九 一六、一九 一七、四一 め止

雜報

綿布反動安 頃日來棉高糸高と併つて俄然形勢を一變し立直り來るや共勢ひ破竹の如くなりし綿布も先物七圓十錢現物六圓九十錢を高値として休日明けは米棉一圓四十錢安に更に人氣を惡化し同日の大阪相場は先物六圓九十錢現物六圓七十錢を報ぜしが急激立直り後の呼下げと見て一般冷靜に構へ居れり

和紙類强硬 原料薄のため產出幾分減少の折柄需要期に入りし和紙は歲末年始を眼前に控へて地方筋の思惑的買進みあり紙物類は殆んど品切れの狀態となりロール類は各會社とも原料パルプ高にて不引合なるより製造を手控へたるに反し需要激增せるため內地市場の如き品拂底を傳へ一面多少の因循を存する問屋筋も品切れと稱して賣らざるため相場奔騰し目下の處全く値段なき有樣也なりと殊に土佐改良半紙は原料三椏ざ楮子原料に大部分買占められ品不足を告げしため却々高値なり

澱粉の產地近況 値頃買の大勢も四國の甘藷激しき爲めに相場のみ先走り賣物入手困難と見て取りたる各手合は忽ち手を引き形勢俄然の態度に出でたれば相場も陷つて行詰へ纏め捨一等袋付十三圓五六十錢にて賣物現はれたれども少々の手合に過ぎず强氣筋の如きは十三圓七十錢を唱へ居りしも買人なくため漸次軟化せりしも其後の市況は人氣稍喜良なれども商談遲りなく一般に手控への模樣なるも某大手の如き盛に來季筋へ手合行はれ居れり値頃は未粉袋入十二圓七八十錢との事なり

牛皮は持合ひ 牛皮は其後依然大皮好調なるに引替へ中皮は一昂時狀狩にて時々相場の下押し氣味を現はさんとするも未だ正味七十圓以下に降らず引續き持合ひの狀にて經過し乘りしが昨今に於ては出廻り多きに連れ却つて商內は一時より盛んに行はれ居れり而しながら最近に至り乾燥不良品の格落多き爲更に當業者を惱まし居れる模樣也

清酒又値上げ 內地にては前年度の造石の增加なりしにも拘らず醸造期の氣候變惡なりしため少なからぬ不良酒を出し實際の造石は二割近かくを減じ事とより更に一般良酒の減石は新酒高値を呼ばり喧傳せられたる處なるが本年業界の活況に伴ひ需要の增加すると共に上酒拂底の聲益々高く價格は漸次昂騰の一方に當地の如きも例年は當然値下げあるべき時の値下げなかりしのみならず酒稅令の改正より實行を見るに至り當時に於て今回又々前記の如き內地事情に從ひ十五日より大更に一圓方値上げを爲し來る十二月一日より之が實行を期する筈なりといふ

期米 仁川米豆取引所仲買人 ㊥ 平田商店 電話……

燐寸は漸騰 大阪燐寸は……に連れ徐々高値に趣き此際安全の三十十國ボスの三十七圓五十錢處を唱へられつゝあるが眼先一押し上値を見んかの模樣なり

蜜柑入荷途切 蜜柑は頃日來日々荷主より積付通知あるも輸送貨物の停滯せる際にて此所三日は全く入荷無之の姿にて仲買小賣店共此處荷待の折柄如何に好なるか今朝は昨今朝鮮物は荷主斷安りといふ梨は昨今朝鮮物にて唱へて積出手控へ內地產の入荷ありと一圓二十錢內外林檎は後緣上物一圓四十錢處を維持しつゝあり

京城正米 昨午後は午前中に比し更に十錢高の氣配を呈し上玄の十二圓四十錢見當に出來せしが、今朝は矢張前米し晩りにて賣物も多かられ引緩き持合ひ氣味を呈せり尙本日は京釜沿線より買附米相當に廻着あり南鮮方面とは辛らく探算し得らるゝ中には地廻りに比し多少格好の物もあるらしき模樣なり

南大門の廻穀 籾は殺いて入荷なる昨ご作米にて目下手放す物少なく依然上氣配なり相場は神力種三錢三厘在米精米上三錢二厘は富成りし ▲一時ボンヤ市況なりし鮮白も今朝は稍々買望みありて相場は十錢方氣直りを示せり

鳥山玄白一〇六叺 仁川玄米三五一叺 水原白米三三〇叺 鳥致院籾二七叺 平澤玄米二一六叺 平澤白米五四叺 平澤白米六五叺 平澤白米一四叺 平澤籾三七叺 深川籾七二叺 土城籾二七叺 軍浦場白三三叺 金讓白米二〇八叺 全義籾五三叺 平澤籾一六八叺 大田白米二七叺 鳥山白米四〇叺 仁川玄米五七叺 小井川籾三九叺 全義白米七〇叺 一山白米三三叺 金村籾 平康籾六六叺 全義玄米七七叺 平澤白米二一叺 平澤小豆二一叺 一山籾一五九叺 鳥山白米四九叺 鳥山籾九八叺 平澤白米三三叺

仁川現物市場 ▲籾入津約四千俵氣配は變らざるも賣物多し ▲正米入津三千餘叺氣配變らざるも賣唱へ ▲大豆入津五百六十叺 氣配は保合

釜山市場 廿四日 △正米（十錢高）本邦定期米は昂騰に連れ買氣旺盛にして買人氣强く當市場當り物は休日明けの事とて潮澤なれども新米筋へ賣り唱り値頭は先き落ちな氣勢へ賣り渡りの趨勢に買人ありに於ては相場頭注文を持ち居る爲め余儀なく呼び値に應する模樣にて氣配手堅き商狀を示し相場は十錢高となれり

仁川期米 ▲大豆 引續き荷動き……

二十五日前場 大阪天候晴 前寄十七圓四十一錢 昨止より二十三錢 大上放れの入電二

確實 迅速 ㋮ 廣澤正次郎 仁川米豆取引所仲買人 電話 六五番 六三〇番

節同事移りに六錢高に寄付

又復伸び惱む

市場零聞

案外伸び 昨下げ澁りの反動……

前場の手振

（イ）能く賣る （ロ）能く賣る （ハ）能く買ふ （ニ）能く買ふ （リ）能く買ふ

㊓ 田中金六 仲買店

㊀ 仲買店 仁川米豆取引所仲買人

堅の商內

依然動かず

仁川米豆取引所 二十五日の一月限

	寄付	止め	高値	安値	出來
前場	十二圓八十二錢	十二圓八十一錢	十二圓八十二錢	十二圓七十九錢	二萬千八百石

平均値段	一節	二節	三節	四節	五節
	十二圓八十一錢	十二圓七十九錢	十二圓八十錢	十二圓七十九錢	十二圓七十九錢

賣買取組高 十一月限 九千六百五十石 十二月限 七百石 一月限 九萬千七百五十石

目先籾の入津

舊思想に

出合ふ程度以下に內地移出

砂糖株 本年の粗糖業は……

北濱だより

仁川米豆取引所仲買人 海岸町三丁目 ㊂ 三巴仲買店 電話……

青物小賣相場

サツマイモ	一五	ハツサイ	三五
コイモ	一五	ダイコン	三〇
パレイシヨ	一五	ミズナ	二〇
アカメイモ	二〇	ネギ	二〇
ナガイモ	八〇	レンコン	九〇
ツクネイモ	二〇	ゴボウ	一八
ホウレンソウ	二五	ニンジン	一〇
シンキク	三五	ミツバ	一〇
ナツメ	四〇	カブラ	二五
ハクサイ	一五	ショウガ	五〇
セリ	一〇	チギ	二五

宮本武藏
第二百二十六席
桃川如燕口演 浪上義三郎速記

幸作孝心通じて父幸右衛門の寃罪を雪ぎましたが、是と云ふのも曉雲の慈悲による處でございます、暫く秋田城內へ止つて居つたが、佐竹太守は江戶表參勤不在中故盛江內膳方を辭してそれより出羽米澤へ出で、同國山形へ參り熱見の溫泉場へ參りまして湯治をしやうと云ふので同所玉木屋甚兵衛といふ溫泉宿へ泊りまして滯在して居りまする、此の山形の熱見の溫泉は一名鶴の湯と申しまして、鶴は悧怜なもので足を負傷をして來たが、此の湯の中へ足を入れて居ります、暫くして飛び去つてしまひ復來ては湯の中へ足を入れ、每日然うして居ります內に悉皆傷が癒れてしまつた、成程此の湯は傷に宜いといふので溫泉場としたのでありまする、出羽きつての名湯でございます、此處に曉雲、二天は逗留をして居りましたが、十日二十日と經つに從つて玉木屋の家內のものも馴染となつて、畫工と云ふところから扇或は短冊其の他屛風の類を賴まれて描いて居りまする、曉雲は退屈だから相客の者と碁なぞを圍んで遊んで居りまする、處が隣り座敷に逗留をして居ります客といふのは出羽の庄內酒井左衛門尉殿の城下に居る本間久四郎といふ人でございますが、出羽の本間と云つたら其頃一等の豪家で、當時は悴に家督を讓つて隱居いたし、別に用事も無い處から自分の地面內を見廻つて步いて居ります、三日位步いた處で未だ他人の地面でないといふから大したものでございます、此の久四郎が一日腰辨當で地面內を見廻りに出ましたが、大家の主人だからと云つて決して立派な服裝はいたしません、木綿堅縞の衣類に小倉の帶を締め菅笠を冠つて草鞋穿き、恰度我家を出て二日目のことであつたが、向ふの掛茶屋へ這入つて參りました 久『ハイ今日は、阿父さんお在かね 爺『オヤ何誰かと思つたら本間の御隱居樣でございましたか、相變らずお見廻りでございますか、久『ハイ左樣で 爺『それは御苦勞さまでございます、先づ是へお掛け遊ばせ 久『ハイ〳〵有難う、辨當を遣ふのであるからお湯を沸して下さる樣茶は俺が持つて居ります 爺『ハイ畏りました』と七輪へ土瓶をかけてパタ〳〵煽て居る內にグラ〳〵湯は沸いて參りましたから其の土瓶を其處へ持つて來ると、久四郎は茶袋を取出し中より茶を出して土瓶の中に入れ 久『阿父さん一杯上げやうか 爺『何うも旦那樣の處のお茶は結好で、是を頂きました節には、私共の茶は飲めません 左樣なら一杯頂戴いたしませう』と話しをしながら茶を喫で居りまする處へ向ふの方からスタ〳〵道つて來た職人體の男、其處へ入つて來て 男『オー爺さん、少し休ましてくんねえ 爺『入らつしやいまし さア此方へお掛けなさい 男『今日は餘程步いたせいか大變に草臥た、茶を一杯くんねえ 爺『ハイ〳〵』と土瓶へ茶を入れて其處へ出す 男『何か爺さん喰ふ物は無いかね 爺『鹽煎餅がございますが 男『其の煎餅を二三枚くんねえ』と煎餅を喰て茶を喫で居る樣子を此方に在る本間久四郎が見ると、彼の男の服裝は目倉縞の腹掛股引、印袢纒に三尺帶、傍に置いた物は麻の袋の中に何か重さうな物が入つて居ります 久『ハヽア職人だな言葉の樣子では江戶見らしい』と見て居ると彼の男 男『オイ爺さん、是から庄內までは未だ餘程あるかね 爺『左樣でございます二里半もございませう 男『二里半、そいつは雜作は無ねエ 爺『今晚は庄內へお泊りでございますか 男『まア其のつもりだが、時に爺さん俺は江戶の職人で石工だ江戶から此方へ仕事に來て切上つたから是から江戶へ歸るのだが、來た序だから此の庄內へ廻つて來たが、此の邊で石工でも賴まうと云ふ家はあるめエか、あらば其處で少し仕事をして行かうと云ふのだが何うだらうと云ふのを傍に聞いて居りました本間久四郎、其處へ進み出ました

入院隨意 京城南大門通三丁目（藤木商店横入る） 胃腸病院 電話一六五九番 院主 佐々木杏造

齒科醫學士 橋本清次郎 齒科診療 橋本齒科醫院 南山町三丁目巴城館通 電話二九二〇

十一月廿七日 九星 舊十一月三日 戊辰 本命 五黄 八方取 先勝

▲五黄 依估地に來る事有る日新事見合南方は吉 ▲六白 勝れたる日物に入りて勝の日 ▲七赤 光榮の日 ▲八白 ▲九紫 ▲一白 ▲二黑 ▲三碧 ▲四綠 ……

〈演藝案內〉

明治町 浪花館 電話二六〇 △九日より……

日本活動寫眞株式會社特約 本町一丁目 有樂館 電話二六六 二十五日四日目前狂言 美久仁の花（續き）吉田花若 太閤記（續き）吉田奈良一 法延の涙（續き）吉田奈良春 橘英男（續き）京山大和 勝田新右衛門 花之家養雄 石井常右衛門（續き）長講 吉田一若 難波戰記七人眞田 一席 吉田一若

愈御名殘廿五兩日限り 川柳得意の出し物教育はなし ▲茶の湯 ▲親と子 明治町 浪花館

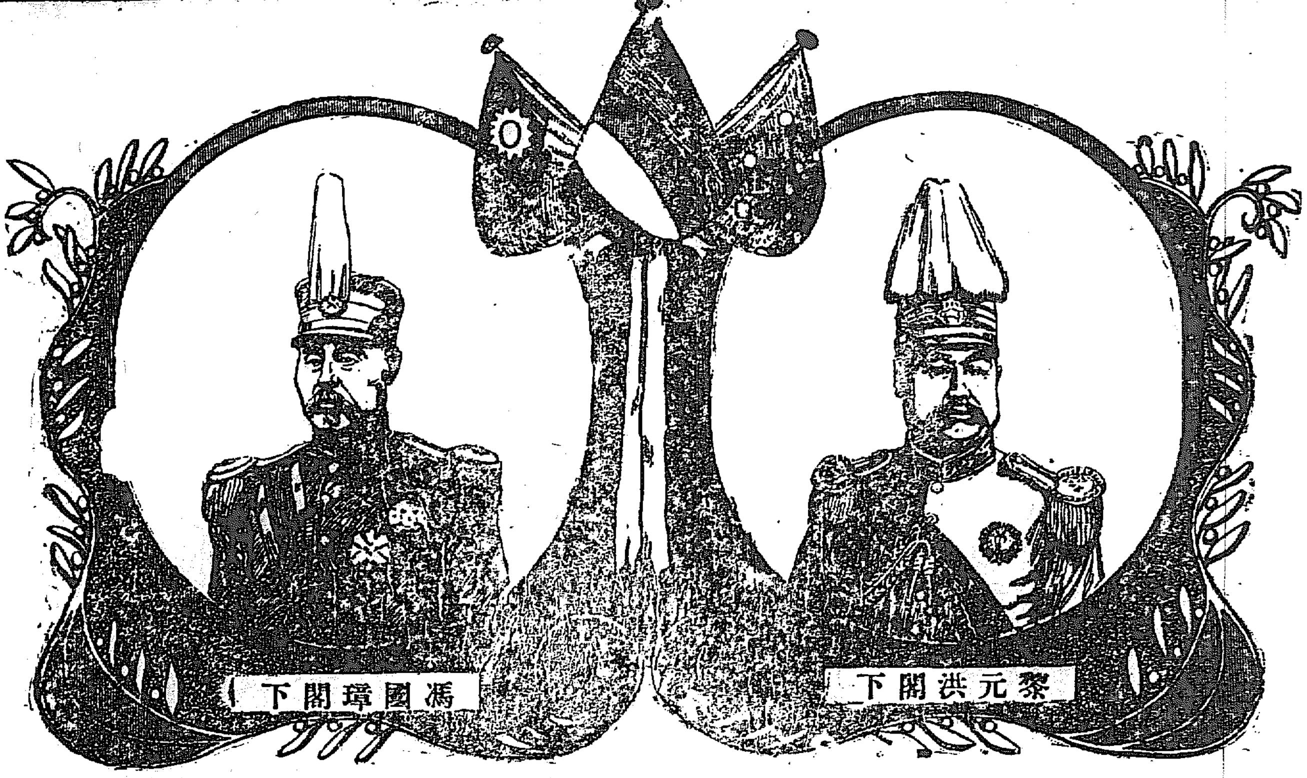
大給色活動寫眞株式會社專屬 黄金館 電話一八五二（階上）二六三七（階下）

明天覽 英伊兩國に於て 猛烈なる大好評 第二戰禍 一萬呎

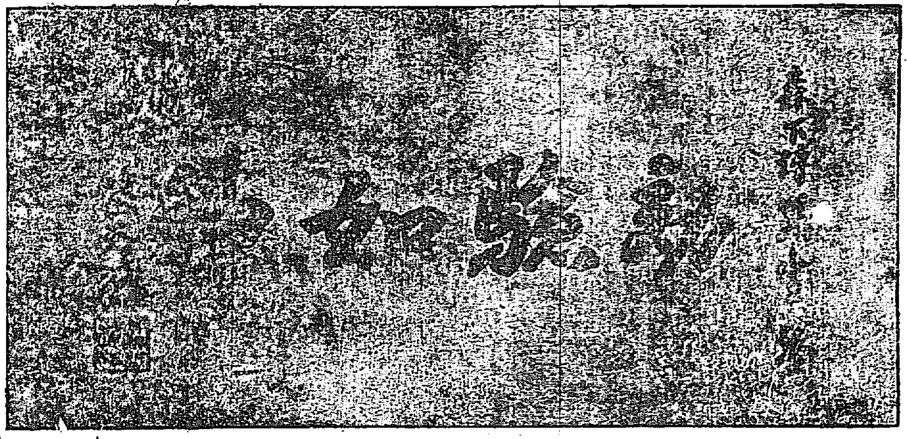
大阪 ○○銀行破綻事件 三巻 新派現代劇 岩淸水 舊劇 木鼠吉五郎 二巻 廿八日限絕對日延せず 大正館

櫻井町 電話八七三 大正館

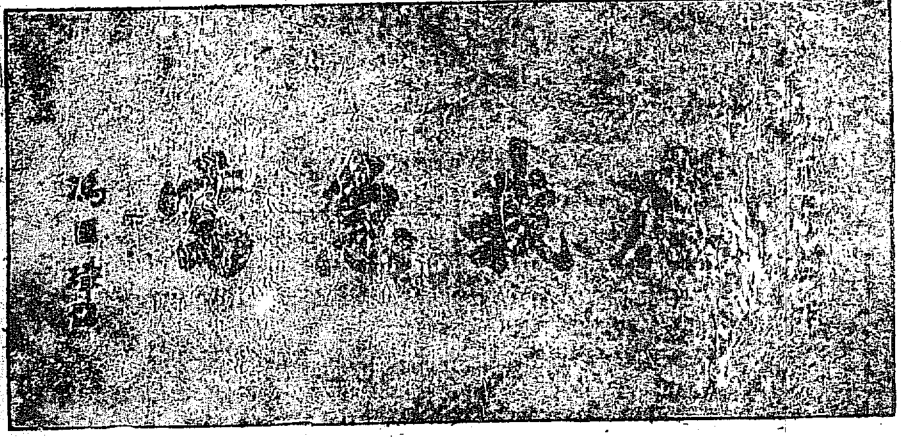
御成町 電話一九一 御成座 第三十三回特別興行 梅一輪（明治幡隨院長兵衛）全五場 喜劇 ラブレース 全二場



此の寫眞は
中華民國大總統
黎元洪閣下仁丹の爲め
揮はれたる眞筆
(實物横物本天地二尺二寸五分幅四尺六寸)



此の寫眞は
中華民國副總統
馮國璋閣下仁丹の爲め
揮はれたる眞筆
(實物横物本天地一尺五寸幅四尺五寸)



中華民國 正副大總統と仁丹

本月八日、馮國璋將軍は愈々副總統の就任式を擧げらる。爽邁なる新副總統閣下は大總統黎元洪閣下と倶に民國に於ける反正の偉業を成せるの人、而かも期せずして與に年來我仁丹に特甚の同情を眷注せらる。曩に賜りし上掲の大扁額は其一表徵なり。仍ち弊舖は更新の意を張り、倍々民國に仁丹の擴賣を念とし、此機に於て日華の親善と兩閣下の健康を祈る。

仁丹 本舖主 森下博

仁丹 特有の機能

- 三輪井上兩博士の御方劑にして高貴藥のみ配伍し藥効的確也。
- 消化力強大なれば食後食後に服用して胃腸を絕對強健にす。
- 殺菌力を有するが故に缺かさず服用すれば惡疫を豫防す。
- 香味絕佳にして、身心を爽かにし、倦怠頭痛、惡醉船車等に殊効あり。

金言
仁は人の安宅也、義は人の正路也 孟子
商業に國境なし アスター

京城日報

廿六日發刊（夕刊と合せて八頁）
本紙定價　一部金三錢　一ヶ月金六十錢
廣告料　五號活字一行金七拾錢
發行兼編輯人　奥田直毅　印刷人　小川三之介
京城太平通一丁目　發行所　合資會社　京城日報社

京城論壇

日支關係の更新

セウルプレス記者　布施知足

一

一言にして評すれば日本の對支政策の失は往々小策を弄して動もすれば漁夫の利を庶幾せんとする點にあり。近時滿蒙の形勢に於て吾等は特に此感を深うせずばあらず。夫れ弄策の語は吾等が平生支那を咎むるに用ふる所にして而も吾等は今却て此語を以て吾邦一部の人士の對支策を評せざるを得ざるを悲しむ。巴布札布は何が故に突如として出で、日本は何が故に蒙軍の歸還を保護せざるを得ざりしか。吾等の解する所に據れば曩に袁氏の故を以て支那の形勢稍急を告ぐるや、邦人の一部には之に乘じ奉天總督張雨亭を動かして事を滿蒙に起さしめんとする運動ありき。吾等は此運動に如何程まで吾邦當路の關係ありしかを知らず。知る所は唯某方面の某々氏が之が爲に奉天に潛行せる事實のみ。雨亭將軍の身邊は其後やゝ多事なりき。乃ち新聞紙は己の知る所を基として彼の行動と局面の變動とに關し幾多の臆説を掲げたりき。而も結局此運動の成功せざるや。次で馬賊を使嗾せんとする計畫は成れり。馬賊の頭目と稱する某は關東州の某所より放たれ朝鮮を經て滿洲に渡れり。吾等は彼の行動に關しては特に沿路の新聞記者が官憲より許されて報道の自由を與へられたる事實を知る。彼は滿蒙に於ける己れの活動に關する幾多の傲語を殘して去れり。世人の一部は更に之によりて局面の痛快なる變動を豫期せり。されど此計畫を立てたる人々の爲には惜むべし、之も亦終に成功するに至らざりき。吾等は今茲に馬賊論を試みんとする者にあらず。然れども吾等は又吾邦人が往々馬賊に趣味を有し、隨つて過大の價値を之に附するを見て其結果を危ぶまずんばあらず。思ふに馬賊は之を側面の牽制運動に用ゐて固より若干の効能あらん。然れども馬賊に依賴し之が横行と官憲が之が制馭に疲るゝの狀とを豫期して以て全局形勢の機を待たんとするに至りては吾等は寧ろ其狂に驚かずんばあらず、支那歷朝の中、流賊の爲に亡びたるものはあり而して饑饉之が因を爲す。外寇の爲に亡びたるものはあり、而して内爭之が原を爲す。今其因なく却て交通の整備警備の完成の如き馬賊の活動を弱むべき幾多の原因あり。此の如き事情の下に在りて吾等は多くの望を馬賊に屬し難きを思はずんばあらず。而して事實は寔に吾等の思ふが如くなりき。彼等の計畫は茲に二度失敗せり。而も彼等は固より之に已む事能はず、既にして突如として出たるものは巴布札布なりき。巴布札布は蒙古近時の英雄なりと云ふ、吾等は其眞に然るや否やを知らず。然れども彼が近時の局面に於ける其行動の跡を見るに至りては吾等は寧ろ之を一種の奇跡の如く感ぜざるを得ず。吾等の聞く所に據れば巴布札布の隊中邦人若干名あり、前粛親王の七子憲奎王亦之に與かる、而して其軍器は又蒙古及び支那のものにあらずと云ふ。新聞紙の云ふ所に據れば彼は蒙古の精鋭三千を率ゆと云ふ、而も吾が聞く所によりて判ずるに蒙軍は其實六百に過ぎず餘は邊境無賴の募兵のみ。其服色の故を以て土人呼んで灰白軍と云ふ。其節制の甚だ信ずべからざるや論無きなり。其軍資に至つては猶怪聞あり、吾等は軍資供給の如き秘事が容易に其關係者以外に漏るべきを信ずる能はず。然れども吾等の聞く所、否寧ろ世間の信ずる所に據れば久原某百萬を出し大倉某七十五萬を出し、共に某所の手を經て交付せらると云ふ。吾等は其果して眞に然るや否やを知らず。更に此金額の果して有効に用ゐられたりや否やに至りては愈々知る所無し。吾等の知る所は唯所謂蒙古義軍が我邦新聞紙の間に甚だ好評ありしに拘らず、其の行動の甚だ振はず而して我邦が或る種の危險を冒して彼等の爲に周旋し、彼等の歸還を護送するの已むなきに出でたる事之のみ。吾等は又蒙古義軍の目的を詳にせず、唯人の言ふ所に據りて其滿朝恢復にあるを聞く。吾等は清朝と蒙古諸王との關係が果して此の如くなるやを疑はざるを得ず。吾等の解する所によれば蒙古は寧ろ清朝に含む所あり、而して何等の恩義ある事なし、况んや之を扶けて民國政府に抗せしむるの企畫をや。假令之を以て一種の義俠彼等を驅つて此の如くならしめしものと解するも、其實力に至つて果して如何。吾等は是に於て又一部の人々の間に企畫せられたる一種の秘策を想像せざるを得ず、他なし滿朝を引て滿蒙の邊境に偏安の主たらしめ、漸くにして之を我が保護の下に置かんとする事之なり。清朝と民國政府とは勢相容れざる可らず、此如くにして吾等は辭を清朝の保護に借りて漸く手を滿蒙の政治に延すと共に併せて民國政府に當るの地を作る事を得ん。吾等は此計畫が我邦一部の人の翹望する所にして要路の間又之を贊する者ありしを否む事能はず。而も之れ吾等が本論の冒頭に道破せる漁夫の利を希望するものにあらずして何ぞや。鷸蚌をして相爭はしむ、其利固より漁夫にあらん。然れども吾等は之れを以て吾邦對支の大患と信ぜざるを得ず。吾等は我邦の採るべき政策としては先づ民國を援くるに於て他意なきにあるべきを主張す。思ふに袁氏の事起りてより最近に至るまで政府の採りたる處置に至りては議すべきもの甚だ多し。其間幾多隱秘の曲折ありしは想像に難からず、而も隱すより露はるゝは無し。其隱秘は今既に露はれて隱るゝ所無く獨り邦人の之を知るのみならず、支那人亦之を知り、歐米人も亦多くは之れを知りて小策爲に却て我邦の不利を生ぜんとす。吾等は新内閣の成ると共に政府が對支の關係に於て一轉機を劃せんとし乃ち先づ參謀本部と陸軍省とをして手を引かしめ、對支外交は專ら之を外務省のみに收めんとするを聞きて甚だ之を喜ぶ。吾等は本野子が入つて外務に長たるの後と雖、又よく此方針を遵守して渝らざらん事を望み、日支兩國親善の爲には先づ國内幾多小策の源を塞がん事を希ふ。

二

滿蒙要地の警察權が鄭家屯事件に關する我要求中の一項を成せるは殆んど疑無きに似たり。吾等は今之に關して許論を試みんとするものにあらず、吾等は唯此點に關して世人の期待が其實に比して寧ろ甚だ大なるものあるにあらざるかを疑ふ。若其れ之を以て日本が滿蒙に於ける近き野心實現の準備の如く解する者あらば吾等は其疑惧なると期待なるとを問はず共にその意外に終るべきを斷ぜんと欲す。吾等は要求せられたる滿蒙要地の幾箇所なるかを知らず然れども思ふに邦人企業の地と認めらるゝ十數箇所に過ぐる能はざらん。吾等は今日邦人が滿蒙に於て企圖する所は其企業の地と企業の權とに止めん事を慫慂せざるを得ず。土地を併合し、政治を我に收むるの要安くにか在らん。吾等は邦人中往々にして此思想を懷く者あるが故に滿蒙に對する日支の關係は普通以上に困難なるものなるを知る。吾等は茲に之を細説せんとする者にあらず。吾等が謂はんとするは警察權に對する邦人期待の點にあり。世人或は言ふ支那は治安の確保に困しむ、若し警察權を我に收めて以て其地の治安を保せんか獨り在留邦人の利のみにあらず併せて又支那人の利なりと。吾等も亦固より又其然らん事を望んで已まず。然れども日本の警官の在る所直に治安在り、治安の在る所直に支那人を招徠するを得と言はゞ、吾等は事實に於て又やゝ之と違ふものあるを否む能はざるを悲しむ。彼等は先づ日本警官の偏頗を疑ふ、彼等は次で日本流儀の潔癖ある施政を厭ふ。此の如くにして結果は即ち敬遠となりて現れずば非ず、吾等は此實例を既に安東に於て發見するに於て失望せざるを得ず。人の皆知るが如く安東の發達は其支那管轄區域に於て特に著しく、日本區域に至つては即ち微々として振ふ所無し。其管轄地附近に支那人を招徠せんが爲に日本官憲は實に賭場默許の已むなきに至れりと云ふ。默許の賭場士人之を呼んで三不關と云ふ。蓋し日本の領事滿鐵而して支那官憲共に之に關渉せざるの謂なりと云ふ、其語原に至りては吾等の知る所にあらず。然れども日本の警察は治安を確保するが故に此事直に支那人の感謝する所となると云はゞ、吾等は其論理の甚だ正直なると共に、事實の必ずしも然らざるを認めざるを得ず。警察權の問題に於て吾等は曾て内藤博士の唱へたる所に多くの眞理を認む。蓋し日本は支那人の爲に其番兵を勸め、而して支那人は政治以下更に高尚なる其長所を發揮せんが爲めに安んじて國家若くば個人の警備を日本に托すべしと云ふに在り。吾等は支那人に此雅量あり日本人に此覺悟あらば日支の關係は其困難の半を減じ得べきを疑はず。而も事實に於て警察の實權に當る者は往々其民の爲に警備に當る者なるを忘れて己れ民の主人なるが如く思ひ易し。警官は爲に威を張り民は乃ち警官を見るに白眼を以てす。此の如くにして吾等は警察權の事猶甚だ爲し易からざるを憂ひずばあらず

三

警察權問題に關聯して考ふべきは支那政府雇聘の顧問若しくは官吏に對する我國民の期待之なり。吾等は彼等が彼等に對する所は其善く仕ふる所に忠なるにあるべきを信ず。若夫れ不幸にして自國と支那との間、關係の圓滑を缺ぐ事あらんか、心を盡し意を盡して必らず其衝突を避けしめんと努むる事は有るべし。自國の爲に其仕ふる所を賣らんと圖るべきにあらず、何ぞ况んや平生事無きの日に於てをや。吾等が一意其仕ふる所の爲に圖つて已まざるを以て彼等の當道なりと思はざるを得ず。不幸にして我國民の多くは此點に關して甚だ正常の觀念を缺ぐが如く往々外國に仕ふる顧問若くは官吏に期待するに國家探偵に對するものを以てするに似たり。固より支那は列國競爭の場なり、其勢力の消長を爭ふ宜しく常に當の用意と手段とを具へて日夜弛むことあらざるべし。唯其れ此の如きは之れ寧ろ自國公使の任にあらざらんや。之を以て顧問若くは官吏として其國に仕ふる者に期するは斷じて謬にあらずと謂ふべからず。吾等は此の如き謬れる觀念を基として吾邦より薦めたる顧問を責め就中碩學有賀博士の如きを惡罵して遺す所なきに贊する事能はず。吾等と雖も博士の行動に不人望なるべき或物ありしを否むものにあらず、然れども吾等は之を以て博士を咎むるに先だち先づ我國民が博士に期する所の何たりしかを質さゞるを得ざるを思ふ。吾等は支那の外交が夷を以て夷を制するに在りて而して我邦の輿論が皆此策を非として之を攻むる事急なるを知る。此外交策の非なるは吾等も亦異議ある事無し。唯其れ其非なる所以のものは列强の勢力を引いて相爭はしむるの非なるにあらずして自國が國勢の確立を基とせずして徒らに苟安の小策を弄するの非なるにあり。支那に説いて其政策を棄てしめんとするは之を棄てゝ代りに已れに頼らしめんとするにあらずして速に自己を確立し自國の力に依る外交を行へと云ふに外ならず。乃ち知る夷を以て夷を制するの外交を棄てよと云ふは未だ必らずしも之に代へて日本に依れと云ふの結論に達せざるを。若其れ率直に吾等の希望を云はゞ吾等は支那が其全體を擧げて我邦に依らん事を望む。而も其依るべき邦の撰擇に至りては吾等は猶支那の自由を認めざるを得ず。是に於てか問題は終に何れの國か最も先づ支那の良友たると云ふに歸せざるべからず。吾等は茲に於て又我國民の反省を請はざるべからざるを悲しむ。我國民は從來眞に如何なる程度まで支那の良友たりしか、幾度か支那に代りて憤り、幾度か支那に代りて立ちたりしか。吾等は我邦が從來支那を援くるに於て未だ全力を擧げたりと信ずる能はざるを憾みずばあらず。

四

吾等は是に至りて一の疑問に逢著せり。吾等は果して眞に支那が强からん事を欲し、支那が國力充實して世界の競爭場裏に列强と伍せん事を欲するか。吾等は我邦人の間に支那の强國となるを恐るゝの念あるを否む能はず。曩に林公使の任に北京に赴くや途に人の彼に會して支那問題の前途を叩く者あり。彼答へて支那が强くなるとも恐るべきにあらずと云へり。近日吾等は又吾が室に在りて戸外に兒童の學校より還る者の相語るを聞く、曰く吾等は支那を援けざるべからず然れども亦支那が餘りに强くならば終に我邦の憂をなすに至らんを恐ると。吾等は之を聞いて支那の强くなるは我國民一部の深憂なるを知り、乃ち我邦の對支政策が常に半上落下其全力を擧げて之を援助し得ざるの理由を發見したるが如く感ぜずばならず。其れ一手之を援かんとし他手之を擠る。勢ひ其爲す所に惑はざるを得ず。吾等は之を以て我邦對支の病源が常に動搖して止まる所なきの因となし、而して其此の如きは決して支那の感謝を博する所以にあらざるを思はざるを得ず。曩の日吾等は又我政府が其推薦して支那に教育の事に從はしめんとする者を誡めて支那の青年を教育し過ぐる事勿れと云ふ由を聞けり。吾等は此の如き噂は之を割引なくして信ずる者にあらず。假令信ずとするも猶其意味を表面以外に永めんと欲す。然れども此の如き噂の製造せられ傳布せられ、而して甚だ怪しまれざる所以のものは其間又何等か之に近き原因あるを否む事能はざるを悲しむ。仰も知らず我國民の對支觀念は此の如く淺薄にして且卑怯なるか。吾等は今茲に日支一家論をなさんとする者にあらず。素より吾等の理想は日支が眞に一家たるに在り、然れども理想は終に理想のみ現實に於ては即ち日支兩國は猶對峙の形勢にあり、時に又相爭ふ事無きを保すべからず然れども其之あるが故に吾等は支那の弱きを欲すと謂はゞ、吾等は其終に正論にあらざるを知ると共に、又論者が寧ろ世界に於ける支那の位地を解せざる者と認めざるべからざるを悲しむ。列國競爭の裡にありて支那は吾之を拓かずば彼之を拓くの位地に在り。其自覺を止め其進歩を止めて長く之を弱國の域に置くは固より爲し得べからざる事に屬す。支那に對する列國の競爭に於て吾等は支那を援いて最も早く列强の伍班に上らしめたる者即ち此競爭の勝利を得たる者なるを信ぜざるを得ず。吾等の努力は當に正當に支那を導いて支那を强からしむるに在るべし。抑何の故ありてか我國民の一部は其努力を憚らんとする。吾等は我國民が進んでこの謬想を打破し隨つて其半上落下の政策を棄てん事を希うて已まざるなり。若其れ之を支那よりして觀ば即ち目下の急務は速に自己の國力に對する正當なる觀念を得、國力以上の外交を庶幾せざるに在り。而して之れ伍外交總長が就任に當りて政府と國民とに約したる所、吾等は之を見て支那が次第に正當の道を歩まんとするを知り、甚だ之を慶す。而も其外交總長の認むる國力程度の如何に至つては吾等が之よりして彼に聽かんとする所なり。

日報詩壇

○行脚僧　栗原　華陽
鞋芒鎗笠水雲齊。衣鉢飄飄無定栖。默不言塵世事。幕天席地僂東西。
評曰　極見鍛錬。

○天長節恭賦　古城　梅溪
清晨紫陌動旌旗。萬國衣冠朝玉墀。德無遐邇八荒仰。龍顏有喜五雲垂。品海日上朝儀燦。愛嶺月殘宸醼嬉。敢祝華封芹欲獻。愧將疎懶負明時。
評曰　瑞氣繚繞、措詞極和雅、

○登高　西田　白陰
十年爲客宦游身。每值重陽感特頻。紅葉黃花秋滿目。把杯空憶故園人。
評曰　俯仰有是恨種、

○先考二十年祭賦奠　笹島　紫峰
回首幽明二十年。祭壇今日禮尤虔。鼎勸是僞爲天性。且愛且憐知宿緣。高護豐碑山巍巍。清流遺澤水涓涓。倦遊吾已空歸臥。洛得餘恩保冤全。
評曰　用筆謹嚴、至情流溢、

日報歌壇

京城　本間　黎月

館さげて並木の道を踊りゆく大工の指の太かりしかな
闇を歩む我が足音の淋しさに立ちどまりてはふりかへり見る
雪解道を共に通ひしおとめ子よ何處に今宵の風音をきく
阿武隈のかの崖の上に澁柿は色づきつらむおほどかの秋

教員養成
小學本科正教員、准教員、尋常小學師範入學試驗受驗科各科新學期開始
講師　大部分男女兩高師範教授敎諭其他知名大家
此際入會者に限り大特典あり先づ會則を看よ（ハガキにて申込次第進呈）
會長　澤柳文學博士
東京市牛込區津久戸町二四　日本師範學會

警官養成
收入多く立身成功迅なるは警官あるのみ▼内地、臺灣、朝鮮、關東及外國にて就職せらる▼目下募集中本會の講義錄で學べば受驗に合格疑なし也▼會長顧問及講師は警察界の專門大家である▼青年及在鄉軍人諸君の大勇奮▼直に入會して榮譽を得よ
見本會則進呈　東京市芝公園　警成協會

優等清酒

福岡縣三井郡山川村　釀造元　富安本店
京城永樂町二丁目　發賣元　富安京城支店
電話四一〇番　振替口座二三九番

婦人公論
▼所謂新しい女の殺傷事件を論ず　安部磯雄
▼戀愛中心の結婚（本間久雄）
▼男と女の戰場に送つた女……（メンボ氏）
▼身につまされて（水島尺草）
▼キューリー夫人（良要博士）
▼女性に適する職業を選べ（澤柳博士）
▼妖怪變化夜話（井上博士）
▼都會の女と田舎の女（石川半山）
▼帝國議會と婦人……
▼溪間の百合を咲かせる法（廣田花崖）
▼子寶珍妙物語（わらび生）
▼堀江博士を呈して婦人職業論の要を論ず（西川文子）
▼肌のあれを防ぐ法（遠藤波津子）
▼女子職業調べ（十女優）
▼或女學生から或女學生に送つた手紙（第三の男）
▼嫉妬（中村吉藏）
▼兩國の秋（岡本綺堂）
▼（小說）捨兒（森田草平）
▼小さな心（田山花袋）
十二月號の壯觀
東京市本郷區西片町十番地（振替東京三十四番）
定價廿三錢　郵稅一錢五厘
中央公論社

日韓書房　新版報告
野上彌生子著　新しき命　定價一圓三十錢　送料十八錢
澁澤榮一著　村莊小言　定價一圓五十錢　送料十四錢
副島八十六著　帝國南進策　定價一圓　送料十錢
松本鐵之助譯　最新實話　獨探　定價六十五錢　送料八錢
森田幸平著　虛榮の女　定價一圓十錢　送料十二錢
京城本町二丁目　電話四一五　振替口座五一一

東宮殿下御嘉納品　御即位式主基齋田米精白　金杯牌十數個受領

特許　清水式無砂精米麥機
模造品に御注意
本機の名聲を羨み形のみ似せたるもの各所に顯はる欺かれて御損害を招き玉ふな
模造品は目下征伐中なり購入者も共に法律の處罰を受く御注意ありたし
全國各農事試驗所、各稅務監督局、各農學校、陸軍糧秣本支廠、釀造試驗場其他官省御用命

製造發賣元　陸軍御用達
合資會社　清水商會
東京市神田區五軒町三番地
電話下谷三七三四番　振替二〇七〇〇番

第三版
▲（下）の商内
東山農場に年齢三十五六歳の男……が二十三日縊死し居るを農場人夫が發見し此旨屆出でたるを以て……

◎露國新首相の任命

遞信大臣トレポフ氏はスツーメル氏に代つて首相に任せられスツーメル氏は侍從長に任せられたり（露都電報）

◎露國首相辭任顛末
保守政策遂に民心を失墜せし結果か

露國首相の辭任に就き聞く所に依れば同國に在りては早くより戰爭の掛々しからざるを批難する者少なからず殊に內政に關しては進歩黨對保守黨の軋轢あり昨年ス氏內閣成立後の保守政策に反對する者殊に多く議會は去十四日開會早々喧囂を極め首相は爲に施政演說すら爲す能はず殊に從來政府黨たりし國民黨すら政府に背き政府は之れが爲め議會に多數を得る能はず遂に首相の辭任を見るに至りたる次第なりと（倫敦電報）

◎第八回正式談判

二十三日林公使は段總理を訪ひ鄭家屯事件に就き先づ豫備的交涉を爲したるが二十四日午後夏外交次長を訪ひ第八回の正式談判を開始す可し（北京特電）

◎四國銀行團抗議

四國銀行團は米支借款を以て政治的借款なりと認め支那政府に關し抗議を提出せり（北京電報）

□陸軍大學行幸
御歸途參謀本部に臨幸

天皇陛下には豫て仰出されたる如く二十五日午前九時三十分宮城御出門鹵司侍從長御陪乘波多野宮相以下供奉員を隨へさせられ陸軍大學校卒業證書授與式に臨幸あらせられたり　陛下には御著後階上の便殿にて御少憩後河合校長の御先導にて講堂に入御優等學生下村砲兵中尉外二名の講演を聽し召され再び便殿に入御御少憩後卒業證書授與式場に臨御校長より卒業證書を授與し終つて田中侍從武官をして左記優等學生六名に對し恩賜の軍刀一振宛を傳達せしめられ次で　陛下には校長の御先導にて便殿に於て御少憩午後零時十分君ケ代奏樂中に參謀本部に向はせられ同零時三十分參謀本部御著上原總長の御先導にて便殿に入御御少憩後閑院宮久邇宮梨本宮朝香宮東久邇宮殿下と午餐を召させられ山縣元帥寺內首相波多野宮相大島陸相其他に御陪食仰せ付けられ終つて午後二時三十分還幸相成りたり（東京特電）

砲兵中尉下村定▲砲兵中尉橋本群▲步兵中尉田中哲一▲步兵中尉村上啓作▲步兵中尉吉本貞一▲步兵大尉山下奉文

◎齊愛鐵道工事著手
測量既に完成＝豫算二千弗

北京政府は北滿洲に於ける馬賊の橫行と交通の不便なるとに鑑み齊々哈爾愛琿鐵道の工事を進捗せしむることに決したるが聞く所に依れば同鐵道の測量は既に完成し豫算二千弗にて政府は黑龍江省に於て荒蕪地を公開し之より徵收し得べき土地稅豫算一千弗の外吉林奉天兩省より徵收する豫算なりと（上海特電）

◎伊軍進擊高地占領

マセドニアに於ける伊軍公報に依ればモナスチール西方の山岳に在る伊軍はムサ山より行はれたる敵の猛烈なる攻擊を擊攘し續いてホカホーに進擊しブラヂンドル南方の諸高地を占領せり（倫敦電報）

◎三線聯絡運賃抗議

三線聯絡運賃問題に對し滿洲駐在各國領事團は外國品に對する大連營口と奉天間の均霑に關し抗議を提出し來れり（東京電報）

◎駐露大使後任
安達公使の就任を見んか

駐露大使の後任に就ては內田子爵、秋月氏、石井子爵等物色されつゝあるも昨今の形勢にては安達公使の就任を見るに至るなきかと觀測さる尙政務局長の更迭は多分二十七日發表せらるゝならんと（東京特電）

◎總督送別晩餐

寺內首相は二十八日長谷川總督を主賓として送別晩餐會を催ふす由

◎割引運賃問題

共益社に對する割引運賃撤廢は四圍の情勢可ならざるものあり內沙里院當業者は鐵道の提議に從ふ事に決し關係先へ聲明せり（鎮南浦特電）

◎朝鮮內の補助貨不足
其原因と補充策

中央と地方を問はず近時補助貨乃ち銀貨銅貨不足の聲は頗る喧しく場所によりては銀貨を釣錢として要する買物の不能なる事あり一圓の

▲鮮銀券を半截し五十錢に通用せる地方あり小額の釣錢にマッチ郵便切手端書等を手渡しつゝある例あり不足の狀態日を逐うて甚しき模樣なるが其の原因及び救治策に付き理財課當局は曰く補助貨不足の聲は或は事實以上に甚しからずやと思はる但し朝鮮內を通觀し確に若干補助貨の不足し居るは確かなる事實にして當局も其の救治策に就き最善の手段を執り居れり然らば

▲何故補助貨缺乏を來したるやと云ふに（一）朝鮮銀行券發行の膨脹に伴ひ補助貨の流通額が增大せざる事（二）韓國製補助貨引揚げの二點に歸著すると見るを妥當なりとせん詳細精確の補助貨鮮內流通高は絕對に之れを知り難し何となれば關釜聯絡並に鮮滿國境間交通旅客の所持補助貨は每日若干宛鮮內の補助貨を增減しつゝあるも其數字を一々計算し難きを以て也、されど各方面に就き調査せる略實際に近き朝鮮現在流通の補助貨總高は朝鮮製（業錢を除き）百八十萬圓、內地製五百十萬圓合計六百九十萬圓內外なり然るに此の補助貨の流通額を累年の統計に比すれば增大せず

▲反つて減少し居れり然るに朝鮮銀行券は遂次膨脹して現に四千萬圓台に達し居るに付茲に補助貨と紙幣とは相逆行し補助貨不足の聲を現出せり然らば何故補助貨の流通高漸減せりやと云ふに每月相當額宛日銀國庫局より鮮銀國庫課に補助貨の廻送はあれど舊韓國時代發行補助貨の引上げ鑄潰しを行ふ爲め若干の增加は忽ち總額に於て減殺さるゝの有樣にあるなり之れ補助貨缺乏の聲の生ぜる原因にして其他の銀貨民間鑄潰說の如き當局として絕無を斷言せざるも殆んど其の跡を見るを得ず翻つて頻々各方面より補助貨の不足を訴へらるゝに付當局にて

▲其救治策に如何なる方法を執りつゝありやと云ふに第一大藏省に幾回となく補助貨現送增加を交涉し居れど內地に於ても不足の聲あり又露貨鑄造の關係もありたりと見ゆ捗々しく發送し呉れず依つて（一）極力鮮銀一圓券の增刷に努め幾干にても此の際小額紙幣により補助貨の不足を補ふ事（二）一時の補遺として汚損一圓銀行券の引上げしものも尙ほ流通し得らるゝ限り市場に放出する事（三）韓國補助貨引上げの中止（四）又一旦引上げたる韓國補助貨にして尙ほ鑄潰さゞる者は再び之れを市場に流通せしむる事等及ぶ限りの方法を執り居れど銀行券の增刷には印刷力の限りあるあり諸般の點に於て尙ほ遺憾の點あれど止むを得ず補助貨の現送を待つの外なきなり

◎京城金融概況

米穀類端境期に在る爲め未だ出廻り多からずと雖も內地新物頗る强硬を示したれば賣行漸次良好に向へり又綿絲布類を始めとして其他の輸移入品は總て相場漸騰の趨勢を示せる爲め金融界も亦初旬に於ては前月に引續き差したる變化を見ざりしも中旬以降に至り一般市況の活潑に赴くに連れ自然買付に對する相當資金の需要を喚起し久しく遊金過多に苦みたる市內金融業者も資金の繰廻しに繁忙なりしもの、如く月末に於ては近來見ざる盛況を呈し各銀行を通じ一般に貸出增加預金減少の趨勢を示し金融界稍小緊の裡に越月せり然れども內地市場資金潤澤の影響を受け金利引締を見るに至らず其後米豆の出廻り增加に從ひ一層金融繁忙を來すべし市內九銀行の殘高は前月に比し預金七萬四千餘圓增加し前年同期に比し預金三百四十六萬五千餘圓貸出四百八十五萬三千餘圓の孰れも增加を示せり

◎水越氏任命

朝鮮銀行理事より新に北海道拓殖銀行頭取に榮轉す可く內定し居たる水越理事氏は二十四日を以つて愈々同頭取に任命されたる旨二十五日朝鮮銀行に入電ありたり

◎支那駐劄領事更任

北條副領事は今回赤峰領事館領事代理に內定し其後任は外務省書記生岩越美高氏副領事に陞任赴任す可し

◎早稻田校友會

早稻田大學校友有志は此度東拓理事に新任されたる川上常郎氏並に目下全鮮新聞經營者大會出席者及出張所長會議出席者中同校出身者の來京を機とし二十六日夜喜久家に於て校友會を開催する由今回は別に一般に通知狀を發せず豫て校友の出席を希望し出席者は同日午前中喜久家宛申込まれたしと

◎統營慶水產物品評會

慶尙南道統營、固城二郡聯合慶水產物品評會並に敎育品展覽會は本月十五日より開催の筈なりしに當時虎疫同地方に發生せし爲め開會を延期し居たるが最早同病も終熄せしを以て愈々十二月一日より七日間統營港工業傳習所內に開催する筈なりと（釜山）

人事

▲加藤定吉氏（代議士）二十六日朝退京▲多田榮吉氏（新義州木材會社長）二十五日朝退京▲立花通年氏（全州道技師）▲三原新三氏（木浦技師）▲井勞次氏（大邱農技師）二十五日夜入京浦尾へ▲鐵保之助氏▲武田總一郎氏▲宮原忠正氏（以上水原農事試驗場技師）▲三宅驥吉氏（平壤種苗場技師）二十五日夜入京巴城館へ▲澄川照氏（漢江農工銀行支配人）二十五日朝歸京

□無佛開城雜話（下）
松都名所巡り

吾儕等は先づ氣永う崇陽書院に行つた、高麗朝五百年榮華の跡を訪ぬべき滿月臺も、唯礎石と瓦礫より外に何等殘つて居ないが、流石に鄭圃隱の遺德の然らしむる所、祠廟猶ほ儼乎として存じ一人の老儒が、近在の群童を集めて漢文の素讀などを訓へつゝ書院を護もつてゐる

興亡千年雨悠々。廟宇儼然倚古丘。猶有群童慕遺德。唔咿聲裏護書樓。

書院から山を越ゆる虎亭より開城邑內を眺望しつゝ、善竹橋に向ふ、途中偶々畑の中に一の石碑を望んだ、と、それが李牧隱の古第址であると敎へられた、其處は一の丘を隔てゝ鄭圃隱の第址たる崇陽書院に隣してゐるのである、吾輩は端なくも往昔兩雄日夕相往來せし事など追想に堪へなかつた

礎磋敗垣百年空。一片苔碑荒服中。憶得兩雄來往跡。鄭公家隔小丘通。

此日初冬の空は灰色に曇りて、肌寒い風が吹いてゐた、善竹橋に到ると木枯しに細葉を拂はれた楊柳が、此史上有名な古橋に垂れかゝり、吾輩に『國亡びて山河在り』的の一種凄愴寂寞の感じを與へた

善竹橋

挺身只當致丹誠。一木難支大廈傾。碧血如新表高節。冷烟枯柳古橋橫。

其より金基烱氏宅で晝餐を饗應された、同家は開城屈指の資産家で、人蔘栽培者としては同地の第一人者と聞いた、主人は明治大學の出身で、よく內地語に通じてゐる、其の父金鎭久氏亦た一個の老儒者である、老儒者の徐ろに說く開城史談を聞き、更に王陵に足を運び、釣瓶落しの初冬の日西山に傾かんとする夕刻歸路に就いたが、途中專賣課開城出張所を訪問、時間外なるに拘らず、懇切な所員は予等を標本室其他の各所に案內し色々說明の勞を執つて呉れた、午後五時半發列車で富家技師、商郡守、高判事、徐漢銀支配人、岡本警視、朴宇鉉、劉元杓、金基永、金基烱諸氏の見送りを受け歸京したのである

開城の生命とも云ふべき人蔘は本年出來榮へ未曾有の好況を呈し、其の產額約三百萬圓に及んだと云ふ、內百萬圓は確かに松都に落ち、而して三十萬圓は純益として松都民の懷に落ちて居るので從つて市況も頗る活氣を呈してゐるやに聞及んだ開城人は人も知る如く、李朝の時代には先朝の遺民として一切仕官の途を杜絕せられたので松都士民は獨立自營の道を講じ力行勤儉其の能力を商業方面に發揮し、恰も內地に於ける近江商人富山藥商の如く、朝鮮半島を跨にかけ、活動を續けたものである其のいかに奮勵努力を各地に試みたかと云ふ事は、開城人の過ぐる所草も生せず……てふ俚諺を生じたのに見るも一斑を知る事が出來る、當時松房なる金融機關が到る處に設けられて各地金融の實權を把握し仕官榮達の途は杜がれても猶ほかくして大に商界に發展した、今に其の遺風を存じてゐる、開城に『不願爲官願爲商』と云ふ通用語がある、これが確かに開城人士の氣象を道破したものであらう

不希爲吏去爲商。一語流風標榜長。兵馬堂々半千歲。遂輸八道委松房。（をはり）

露領行記
□輸送難（上）　琴花
（第廿六信）

◎英國の强大を以て且つ一般食糧の濫費を防ぎ持久の計を爲さゞるべからざる折柄露國に一層の窮あり、物資配給の調節に苦めるは怪むに足らざれども此等供給の要路を遠く東に取りて外國に求むる外なく、軍需品の要求特に急にして普通物資に割くべき貨車の餘力乏しく東淸鐵道は十月二十三日より後貝加爾鐵道以西露領へ發送せらるゝ急行便貨物の受入を停止すると共に同二十七日より我が南滿貨物の輸送をも更に大に制限し、旅客の手荷物は一等乘客十布度二三等客五布度以內に減量し、全力を擧げて軍需品の輸送と停滯貨物の整理に腐心する苦衷の狀は同盟國民として眞に同情の念なき能はず、予は哈爾賓滯在中已に久しからずして我が在留民も亦物資に窮するに至るべきを思ひしがイルクーツクに在りては早くも之を實現し米の如きは今後恐らくは一升一圓を投ずるも求むるに道なきに至るべきの强ち架空の妄想にあらざるべし後貝加爾州に於ける穀物の收穫は本年非常の豐作にて小麥、裸麥は一デシャーチン二百布度、燕麥同二百五十布度の收穫ありしと云ふに拘はらず其相場は益々高値を現はしつゝあり

◎我等はイ市に於て有力なる多數の商業家に會せるのみならず、旅館に於て歐露より來れる幾多の御用商人其他の同宿せるに會談せるが何れも葉煙草の買占め、牛の購求、軍用米買入れ等のため來れるものにて沿道の物資を漁りつゝ槪ね支那青島並に我國を目的とせるもの貨車の配給に關しては官衙若くは軍隊長の添書を携へ之をゴンダッチ總督に請ふため各ハバロフスクに過ぎるべきを言へり、イ市第一の書籍商にして印刷業を兼ね、イルクーツク取引所長たるボソーチン氏は今後四十日に堪ゆべき印刷洋紙あれども其後の準備を爲す能はず若し之を供給する道あらば價の如何を問はず即金にて取引すべきを宣言し莫斯科エーネム、ビスケット會社の重役にしてイ市に曹達並に石鹼の製造を業とする名望家ユデリソン氏よりは浦鹽渡にて十萬布度の朝鮮一等米を要求せられ代價は發送準備整頓の電報を受くると同時に松田銀行に拂込む方法に依るべきを以てし其他皮革の注文、油の注文頻々として我等を襲ひしも期節冬季に入り之を浦鹽渡とするも輸送の便なきを慮り我等は一齊に之を辭退する外あらざりき

（附記）旅行を了へて歸京するやユデリソン氏よりは先だちて會議所に宛て南滿鐵道經由として精米十貨車（五千布度）をイルクーツクに送らんこと懇望し來れるを見るされど絕對に輸送の方法なきを如何せむ

◎東の方長春にて三百車、寬城子にて五百車以上の堆貨を目擊せる我等はイルクーツクの次驛にして西方七露里後貝加爾鐵道とトムスク鐵道の接續點たるインノーケンチ驛に亦三千車の停滯貨物あるを聞く、斯くては奢侈品輸入禁止などは愚かのことなり、或は近き將來に八方閉塞儀なきに至らざるなきか、貿易上の大打擊、蒼生塗炭の厄なりと雖も眼前の實況或は止むを得ざるべし（三十日）

◎臺灣入營兵渡臺 臺灣駐[illegible]り官民の重なる者を大和に招待し就[illegible]なりしが此程落成したれば官民有志[illegible]十二月午後二時新[illegible]敎室四十四坪の增築工事は本月二十[illegible]せしめ夫々準備中[illegible]

[illegible]り進捗せざりし大邱公立高等女學校[illegible]買收すべき同社用地係岩永氏を來邱[illegible]口社長來邱の機直接面談すべし[illegible]▲東村附近の[illegible]

[illegible]安[illegible]▲吳鎮守使來る[illegible]此程奉天[illegible]

[illegible]聯隊附稻垣少佐一行三名[illegible]四日朝來安[illegible]及び九連城附近の[illegible]上二十五[illegible]

物品購買公告
一、消防手被服壹百參拾組
一、同　帽壹百參拾箇
此入札保證金ハ各自入札金高ノ百分ノ五以上
入札者ハ京城府內ニ於テ國稅地方費府稅學校組合費年額二拾圓以上納ムル者ニシテ一年以上斯業ニ從事スル者ニ限ル
右ハ大正五年六月六日京城府條例第二號會計規則ニ依リ入札ニ附ス希望者ハ本府會計係ニ就キ仕樣書見本等熟覽ノ上十一月三十日午前十一時限リ同會計係ニ入札スヘシ即時開札ス
此契約ハ朝鮮總督府府尹金谷充擔任
大正五年十一月廿四日　京城府

馬拂下廣告
一、馬二十頭
右競賣ス買受希望者ハ十一月二十七日午前十時印鑑携帶出頭ノコト
京城憲兵隊本部

物品拂下
一、古金物　六點
一、古枕木及木屑　二點
一、雜品類　四拾八點
以上當局龍山倉庫渡
右來ル十二月十五日競爭入札ニ依リ賣却ス詳細ハ官報ヲ見ルベシ
大正五年十一月廿五日
朝鮮總督府鐵道局

鹽
各種食鹽販賣　專賣局鹽務委託販賣
龍山製鹽所
龍山元町四丁目　電話龍四〇七番

客室　食堂　完備
市內四通八達の場所にして庭園廣く眺望絕佳至つて閑靜の地なり
佛蘭西料理調進
宴會は特に御便利に取計可申候
ファミリーホテル
京城南大門通三丁目　電話二一八番

青酸加里
水銀
新荷著　保稅品有
京城本町二丁目
釘本藤次郎本店
電話四五二・二七七四　振替京城二五六

新刊圖書御案內

書名	著者	定價
朝鮮現行官制官規	巖松堂	七〇
同　民刑法典	同	一、五〇
同　警察衛生法規	同	五〇
朝鮮地方行政法規	同	四〇
同　租稅及會計法規	同	二、〇〇
同　土地林野法規	同	五〇
同　水產法規	同	一、〇〇
同　交通運輸法規	同	一、〇〇
同　現行諸法典	同	八〇
債權總論講義案	鳩山秀夫	三、七五
物權法提要第一卷	三潴信三	一、七五
經濟原論　上卷	山崎覺次郎	一、〇〇
大正の青年と帝國の前途	德富猪一郎	八〇
弱者の爲に	杉村楚人冠	一、三〇

大正六年度日誌いろ〱　澤山著荷仕候
巖松堂書店　京城支店
京城本町二丁目　電話二一六六番　振替京城二四五四番

最新式腕巻時計
アンクル　新荷着
▼金側　自金壹百四十圓　至金
▼銀側　自金　至金廿八圓五
▼純ニッケル　自金七　至金十五圓
村木時計舖京城支店
京城本町二丁目　電話一四七〇　振替京城三四〇九
其他眼鏡貴金屬品は當工場に於て製造致候間多少不拘御用命願上候
地方御注文は代金引替小包便にて御送申上候

食道樂開店
▲やすくおいしく▼
▲なんでも致します▼
春川（電話は三七一へ）松葉

新刊書御案內

書名	著者	定價
帝國々難論　國防叢書第一卷	衣斐鉞吉	一、八〇
淸法研究　第二卷	加藤正治	一、八〇
歐洲戰と列强の青年	永井[illegible]	三〇
植物の遺傳と變異	永井威三郎	一、四〇
電氣測定器	[illegible]	一、〇〇
佛蘭西文學史	久保正夫譯	二、四〇
新譯碧岩錄	[illegible]	一、二〇
日本美術史講話	黑田鵬心	特二、八〇
宗演禪話	釋宗演	九〇
沓手鳥孤城落月	坪內逍遙	五〇
修養十二ケ月	菅原教造	一、二〇
木堂淸話	犬養毅	一、〇〇
仁王の拳	高山樗牛	九〇
全國死の勝利	生田長江	九五
善心惡心	里見弴	[illegible]
若山牧水集	若山牧水	[illegible]
西鶴五人女	吉井勇	[illegible]
歡樂の女性	中根[illegible]	[illegible]
虛榮の女	森田草平	[illegible]
男女關係の進化	社會學研究會	[illegible]
新實語獨探	松本[illegible]譯	六九
勝鬘經物語	加藤咄堂	五〇

大阪屋號書店
京城本町二丁目　電話二〇八六番

新荷著廣告
米國製最新式スケート
定價表無代進呈
特約店希望あれば至急申込まれ
京城本町二丁目
篠崎運動具店
電話一三〇三番　振替四六八番

●聖恩枯骨に及ぶ

九州特別大演習に於て畏くも贈位の御沙汰を拜したる二十六名の人々の內舊柳川藩主故從四位下立花鑑賢氏と舊佐賀藩の碩儒故草場磋助（佩川）先生とは共に其の後裔が京城にある、併して立花氏の後裔は立花第十九師團長であり草場先生の孫は總督府通譯官草場謹三郎氏その人である

□感激に堪へず　立花第十九師團長談

『這回聖恩枯骨に及んで忝けなくも正四位を贈られた立花鑑賢は柳川第十一代目の藩主で生前民治上に力を盡した爲めに這回のありがたき御沙汰を賜つたのであらう、海に故人を始め一門の面目として聖恩の忝けなさに感泣して居る次第である、併し自分として直接に關係のあるのは這回忝けなくも其の墳墓に策命使を遣はされた高橋紹運の方である、元來立花家は高橋紹運の子供二人で立てたもので當時紹運は大友家の二重臣と呼ばれた友人の

戸次道雪から懇望

されて長男の宗茂を戸次の養子に遣したのであるがこれが代々柳川藩を繼いだ立花宗茂で其の弟は矢張り立花を名乘つて三池の藩主となつたのである、高橋紹運は豐臣秀吉九州攻略の際島津の大軍を岩屋城に邀へ寡兵七百餘人と共に城を枕に討死したのであるが當時島津義久は紹運の義烈に感じ敵乍ら武士の典型として首級を天拜山の麓に葬つたものである

われ〱三池柳川

兩藩の子弟はやうやう足が利くやうになると岩屋、寶滿、立花山に遠足して當年の物語を聽いたものだが先祖の紹運も亦地下に瞑すべきであらう』

□草場佩川先生　山邊勇輔氏談

舊佐賀藩の碩儒草場佩川先生の孫に當る草場謹三郎氏の宅は大和町老人亭に在る、主人は二十二日先生の墓前に、

報告祭を行ふ爲め

に郷里佐賀縣の多久に歸つたとの事であつたが門弟山邊勇輔氏の談に曰く『私は佩川先生の孫弟子で私共の先生は草場船山先生であつた、當時塾生には山根武亮將軍や倉富前司法部長官などがあつたが佩川先生は今年郷里で五十年祭を行はれる位ゐでずつと以前の人である、先生は曾て舊幕時代の大學校たりし聖堂の學生であつたが年齢廿二歲にして對馬に

來朝した朝鮮使節

の應答使中に加はり其の應答の詩文によつて顯れた人で當時の朝鮮使節との贈答日誌は今でも草場君が所持して居るが實に珍本である、先生は後に陪臣の身を以て舊主鍋島直大侯に採用せられた人であるが當時佐賀藩で有名なる弘道館の先生も勤められたのである、這回天恩が先生にまで及んだとはわれ〱門弟までも忝けなき限りである』

●東京から新兵入營

既報の如く東京市本鄕聯隊區本年度壯丁七十四名は新設の朝鮮第二十師團に入營する事に決定し二十六日午前十一時一同東京驛發大阪より汽船にて釜山に上陸入隊の筈なるが內地より直接新設師團に入營するは今回を以て嚆矢とす（東京特電）

●南山天滿宮の正遷宮執行

今春來遷落を急ぎつゝありし南山天滿宮は漸く此程竣工せしを以て來る十二月一日其の正遷宮を執行する由なるが神殿及び拜殿と四圍の風光との調和最も佳にして恐らく朝鮮第一ならんとの評あり尙其の建築費中へ昨二十四日李王李太王李堈公李埈公各殿下より御下賜金ありたるが李王家より幣帛料御下賜等の事は嘗てありしも社殿建築費中へ御下賜金ありしは嘗て其事なきところなりと

●李王家の寄附

倭城臺上の天滿宮は府內敬神家の寄附金にて今回神殿及び拜殿の改築を爲したるに對し李王殿下より金五十圓李太王殿下より金三十圓其他李堈公李埈公兩殿下より各二十五圓宛寄進せられたりと

●一圓紙幣を五圓紙幣に

江原道伊川郡山內面開連里生れの李聖官（三五）は十月六日自宅にて小刀、毛筆、墨、赤色の染粉等を使用し朝鮮銀行券一圓札の表裏の『壹』を『五』に且つ諺文をも『五』の意味に變造し以て五圓券の如く作製し同月十日右の僞造券を伊川郡樂壤面支下里の市場に於て某鮮人と兩替へせんと談判し居れる所を憲兵に探知されて此程京城地方法院にて懲役三年の處分となれり

●二重抵當の罪

京城長谷川町居住朴泰欽（四二）は高陽郡龍江面孔德里に於て製粉業を開始せんと大正三年八月中朝鮮實業株式會社京城支店より觀水洞所在の製粉工場一棟、石油發動機一臺、附屬機械一式を八百圓にて買取したるも代金不足なるより九月四日桂洞崔漢雄に前記物件一切を擔保に提供して金四百圓を借用し更に其の移轉工事を大工上田德三郎なる者に請負はしめて一部取消したるも尙不足し之が破約をなせば二百六十圓の工事費殘金を支拂はざるを得ざる爲め再度右の物件を擔保に使用し情を知らざる櫻井町松枝某を介して請負業の淺野伊和雄に金借を申込みて前借金なきものゝ如く裝ひ猥に二重抵當を實用して借用名義に金二百五十圓を騙取して殘工事の移轉工事を契約しながら之を不法にも破約したる詐欺事件は京城地方法院にて豫審取調べを終へ此程同法院の公判に附せらる

●昨今は何故暖かいか

仁川觀測所員の談に依れば本月中旬以來大陸方面の高氣壓久しく支那南部に固定し一端を朝鮮に延したると半島附近に著しき低氣壓襲來なかりし爲め一般天候平穩にして比較的溫暖に經過したりしが二十四日に至り該高氣壓の主部は東方に移動し二十五日朝本州の東海岸に至りしと一方蒙古及び支那方面の氣壓低落して淺薄なる低氣壓發生の模樣あるを以て二十五日來滿鮮地方は大概曇天となり氣溫一般に上昇し殊に京仁附近甚しく平年より八度內外の過高を示せり斯くの如き溫氣は主として大陸方面の氣壓低落に伴ふ一時の現象にして二十六日は猶此狀態を繼續すべきも支那方面の低氣壓發達して半島を通過する如きことあらば雨後は北西偏の風を吹き起して俄然氣溫の低落を見るべく倘二十六日は全鮮一般天候不定にして所々に多少の降雨を見るべき見込なり

●大豆百廿六叺紛失

慶北倭館內國通運會社取扱にて內地輸送の大豆百二十六叺は去る十二日發送釜山驛に到著したる迄は分明し居れるも二十日頃該貨物の紛失し居れるを發見し其筋に屆出で以來搜索し居れるも未だ發見する能はずと（釜山）

●稅金五百圓橫領

江原道伊川郡邑內面長金石里黃道忠（三八）は明治四十四年一月以降伊川郡廳の雇員を奉職し財務係の地方費徵收事務に從事中大正四年四月一日より大正五年四月三十日迄の間に各納稅者より徵收したる屠獸稅、市場稅、地稅附加稅等合計四百七十五圓餘を數十回に橫領消費したる事件は此程京城地方法院の公判に附せられたり

●入獄中古疵露顯

原籍福岡市大濱町生れ當時大邱田町居住の沖村遜與（三二）は去る九月九日大邱地方法院にて猥褻圖畫賣買及び橫領に依り處罰目下大邱監獄に服役し居るものなるが入獄前金泉に赴き居りし中去る大正二年四月頃同地谷口甚助の印を僞造しこれに僞造印を及び領收書を僞造して同人名義の家屋賣渡證を押捺して鄭在華と稱する鮮人に前記家屋を賣渡すべしと欺き鄭に僞造せる賣渡證と領收書を交附し金三十二圓を詐取して逃走しゐたるものなる事發覺し大邱地方法院の公判に移さる（大邱）

●倅の放蕩の爲に

京畿道楊州郡漢金面三牌里觀覽亭下の漢江岸に本月二十日鮮人の溺死體あるを發見し係官出張檢視せしに死者は同里の金驟敎（五七）といひ同人は長男金武鎬が酒色に耽溺して家業を顧みず剩さへ赤貧なる爲め遂に厭世の結果稍精神に異狀を來して本月十五日頭覺悟の入水自殺を遂げしものならんと死體は家族へ引渡せり

●窓から覗く癖

咸南文川郡都草面祭戶洞韓用喆（三二）は前科數犯あり本年十月中居洞にて數戶に無斷侵入し又は各戶の窓の破れ目より內房を覗き見する癖ありて洞民に告訴せられ咸興地方法院にて懲役十箇月の判決を受けたるを不服として京城覆審法院に控訴せしも此程棄却さる

●汽船中の白鼠

富山縣富山市星井町生れの三村直助（二二）は元大阪商船會社所有汽船高島丸の船員なりしが九月四日同船が咸南西湖津碇泊中積荷たる咸興寺本商店行きの鑵詰箱の中より卷煙草二函二箱（四十袋）を窃取したる爲め檢擧せられ十一月七日咸興地方法院にて懲役六箇月の判決を受けたるを不服とし京城覆審法院に控訴せしも棄却されたり

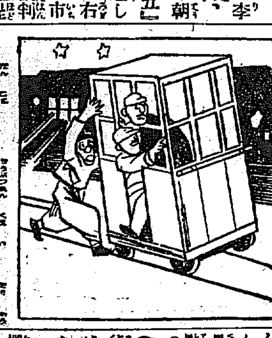
●熟睡の隙に

平南大同郡秋乙美面寺洞金中善（一六）は十一月三日夜同村の金已八の溫突で熟睡せし隙に同人の腰金着より一圓紙幣一枚を窃取し本月十八日平壤署に引致せられ取調中の處二十二日檢事局へ送らる

●龍山基督教會の說教

二十六日午前八時四十分より日曜學校同十時より禮拜說教八時半より傳道說教ある由

柳都景物誌　千帆



（1）市街鐵道　板の樣になつた臀を提げて晩の西門頭平壤に下車した、燦とした星斗の光に染ねた霜を踏んで停車場前の廣場に出ると遠くの方に大きな市街を想はせる灯の色が眠た氣に明滅して居た『これから人押し車に乘つて行かう』と同行子に導かれて黑い闇や明い灯を橫切つて行くと黑い家の陰に四角い箱が並んで居た。何の事はない動物園で獅を入れる檻の樣な箱だ。それでも不質氣な行燈を吊つて、四方を硝子張りにしてゐる所を見ると矢張り一個の驛ぢやないナ、と思つてると同行子はサツサと心得顏に乘つてしまつた。散々虐待された臀の肉は又冷い腰掛の板の上に苦痛を訴へる、ゴロ〱〱と寂い音が聞ゐると、窓を透ける街燈が動いて車は按摩器の樣に振動して進んで行く『あの明るい建物は何です』『郵便局でせう』『あれは？』『ありや南門の跡ですよ元南門と云ふ門があつたんですよ』『あれは？』と兩人が盛んに窓から顏を出して夢中で話して居ると、車は危く中心を失はんとしてその度に運轉手君が『アイゴー！』と悲痛な聲を發する。黑い深い眠つた街に寂しく軌る響を殘して、終點らしい太い柳の前に突き當つてそこで車は止つた。

（2）練光亭　翌朝濃い霧の少し霽れるのを待つて出かけた。少しゆくと瑞々しい朝暾を受けて綺麗に輝いた門が街の緩い屋根の上に見へた。コバルトと朱と白の相交錯した大同門は廣い緩かな大同江に臨んで建つて居た。群青色の欄干の陰から白い鳩が一羽飛び出して江を渡つて行く。門を潜つて何とか云ふ西洋建ての間をゆくと、其所にも又五彩の欄間と青い屋根と赤い丸柱が見ゑたので『ヤー練光亭だナ』と石階を踏むと直ぐ足の下に靑い水が一杯に流れて居た。『今年文展で金鈴鏑と云ふ人の描いた夕暮れと云ふのはこの下の崖で朝鮮人の女が水浴してる所を描いたんだと云ふ評判ですね』と案內のエム君が云つて欄干から覗く。成程崖の下の岩には白い巾で頭を包んだ四五人の女が洗濯をして居た。『夏になると愉快ですよ、女が裸でザブンとこの水に飛び込んで水を浴びるのですからね』『練光亭を見るよりその方が餘程面白いでせうよ』欄干に倚つて廻ると、赤い太い丸柱に劃られて、乙密臺や牡丹臺が畫の樣に大同江に臨つて居た。

◆今日の日曜を　郊外へ、郊外へ

打ち續く小春日和に、初冬のうら淋しさへ忘れやうとする今日此頃の慌だしい師走を直ぐ眼の前に控へて又となない佳い

◇遊覽の機會である、十二月に入つては人の心自から忙しく悠々と郊外散策の行樂を恣にする事も出來まい、或意味から今年の遊覽日の名殘りとも見られる此の一日を吾々は成るべく有意味に送りたいと思ふ、郊外の秋は全く老ひて

◇滿目　荒涼たる冬の野原の殺風景は言ふまでも無いが清涼里邊り綠濃かなる松林を別けて又は婆娑たる落葉を踏んで往けば道の盡くるところ白い洲の面、岸の枯草、紺碧の空を寫し淙々の音を立てゝ流れる小川の邊りに出る、冬の郊野に快よい響きを傳へるものは小川の囁きであるとも言へよう、是等は

◇南山　から獎忠壇東大門外から纛島附近さては北門外にかけて到る所にある、市中では例の秘苑の內、動物園には鶴頻りに鳴いて駱駝いと〱肥ゐ、汗さへ覺ゆる小春の日射に背を丸くして日向ぼつこのお猿、兒もすれば親と見紛ふばかりに成長した三匹の

◇獅子　の兒、そろ〱己の世界が近いたと言ひ就に元氣づいた熊公又は海豹なんど相變らず澤山の人の足を止める事だらう、博物館に古代朝鮮の文化のあとを偲び植物園に四季とり〲の草花から芭蕉、椰子の熱帶地植物の雄麗なるを見るもよく市中の植木屋その他を訪ねて菊に

◇名殘　を惜しむも一興であらふ、更に又銃をとつて鴫に鷺にのある人ならば獵機愈々熟して來た此の頃到底默してゐる筈もあるまい、聞けば京元線、京義線ともに雁、鴨の類がポツ〱出て來たと言ふ事である、市中の催しには南山の高等女學校にて同校生徒の音樂會が一時から開かれる、其他活動寫眞なども爭つていゝ寫眞を出して客を呼んでゐる

▲壽座開演

料理屋組合より今回再び嫉野氏の經營に移りたる壽座にては來る二十七日より大阪歌舞伎女優一座にて久し振りに開演すべく初日の藝題は武三功抜だんまり、前狂言忠臣藏道行、切狂言三代記三浦別れの場にて入場料は特に破格の大勉强にて一等三十錢、二等二十錢、三等十錢とせる由

▲川柳お名殘

本月初めより浪花館に開演好評を博し居りし東京落語橋本川柳一座は愈々二十六日限り打ち揚ぐべく大田天滿座に乘込むべしと然かして二十六日の出し物は左の如し

△瓜と茄（歌笛）△權助ちよちん（都遊）△金玉醫者（喜三郎）△三味線栗毛（しらく）△三枚肥書（歩輔）△錬金（雀藏）△藝人湯（橋松）△おごけ八景（市兵衛）△音曲茶屋（鶴之助）△茶の湯かへり（川柳）

△一若好評

有樂館に開演中の浪花節吉田一若は年少にも似ずその語り口に圓熟せるところあり然かも一座何れも元氣の若手揃ひの事とて非常に喝采を博し居れり

△大正館

三四日前より特別大興行として著稀はたる第二戰禍並びに岩淸水は映寫早々より破るゝが如き喝采にて好評を博し居り殊に第二戰禍の歐洲戰亂の一部を寫したるものなるが呼物となり居れり

△黃金館

第一黑い箱、新派キネマ劇晴れ行く雲にて初日以來好評を博し居れり

京日案內

普通　一回前金三十錢　番外　一回前金一行五錢增　▲申込後中止掲載中止の節は料金返戻せず

▲讓店　菓子店明治町目抜の場所 希望の方は至急御來店あれ（姓名在社）785

●電話讓受けたし　本町　飯塚　786

●子供差上げたし　本月出生男子血統正しく身體强壯愛兒の方に差上げたし　若草町一〇七　西岡　781

●日鮮男女外交員募集　月收五拾圓確實 希望者は履歷書携帶本人來談あれ　京城初音町六十二番地　國民書院　782

●證明付無きず丹頂鶴一番賣物あり 希望の方は左記へ照會下されたし　京城本町二丁目　椿元商行　783

▼古本類大注文引受に付高價買受　本町二●電二五二七●ウツボヤ書店　791

●乳母至急入用　御希望の方は若草町百〇六番地穴澤方に御來談あれ　776

●明治三十七年來の老舖にして顧客十三道に普く四通八達の位地にある安宿屋讓りたし（姓名在社）765

●文部長　高尙簡易有利事業月百圓確實希望員郵券添照會即報す　東京麴町下六番　大日本國民教育會　773

古本なら野村　明治町筋電二六三六　買入誠實御報參上　野村書店　636

番外　●卒業生諸子に告ぐ　來る廿六日午後一時より音樂會開催候間御來會相成度候　京城公立高等女學校　775

事務所向貸家　支那領事館通り　希望の方は電話一一四〇番へ　737

●開業披露の爲め本年中一割引にて總て蒲團間付にて一泊三食四十錢より御下宿一ケ月十圓より　太平通二丁目二八　旅館　三好館　778

機關士募集　スチームウインチ轉に經驗ある者十名至急採用す履歷書携帶本人要來談　宮內　京畿　大倉組　工場　753

質　業開　黃金町三丁目十五番地　永樂町停留場北入萬成舍隣　濱田　750

京城春川間行自動車　每日午前八時出發　賃金片道四圓　南大門通一丁目　電話二一九番　京春　廣橋自働車　主務　金正淵　630

毛皮なめし並に仕立　鳥獸剝製調進販賣　京城本町二丁目電二〇六五　椿元商行　612

新案　家庭に工業家に事務家に必携　特許電燈昇降方向自在器　價五拾錢　特約店募集　京城黃金町電話一四二五　電氣機械器具各種電球卸商　巴商行　674

觀相　易　見料隨意　每日十名限　應依頼　永樂町一の九　均陵庵　707

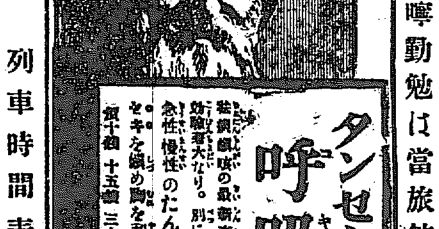
毛皮なめし專門　並に染仕立　京城黃金町三丁目電話三八九番　和泉商行　745

登錄商標　瓢水味淋　堺　鳥井釀　專賣店　京城本町二丁目　前田酒店

朝鮮特產　長生　純人蔘精腦を必要とす　伏見親王の御宮家の御用命を拜したる人蔘界の大王　定價　三十日分 一圓八十錢　六十日分 三圓二十錢　九十日分 四圓五十錢　本劑の奏効絕對に確實なるを普及する爲　當分定價の二割引を以て提供す　葉書の申込に應ず　京城府長谷川町五八番地　朝鮮製藥專賣所　電話一三〇九・振替口座京城三八一〇番

病身は一生の損です早く　滋養大關　次亞燐召せ　早くのめばそれだけ早く見違へるほど健康になる　（賣藥店にあり）

建築と設備とは國境に於る代表的旅館なり　新義州常盤町　綠屋旅館　電話六四番　親切叮嚀勤勉は當旅館の特色なり

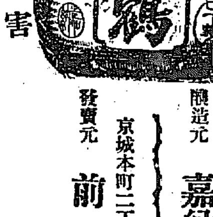


タンセキ改良劑　呼吸器散　新發明の最新高貴藥を調劑せるを以て其効驗著大なり。別に丸劑させる呼吸器丸あり　急性慢性のたん、せき、症にタンを拔りセキを鎭め胸を和らげ安眠の効を奏す!!　十錢　十五錢　三十錢　本舖　大阪　東京　丹平商會

价川輕便鐵道　列車時間表

价川發	前六、〇〇	九、〇五	後十二、〇五	二、四〇
新安州著	前七、五五	十一、〇五	後二、〇〇	四、三四
新安州發	前九、一〇	後十二、二〇	二、四五	五、三〇
价川著	前十一、〇三	後二、二二	四、三七	七、二八

大日本優等淸酒　ハクツル　品質純良　衛生無害



釀造元　攝津灘御影町　嘉納合名會社　發賣元　京城本町二丁目廿番地　前田酒店　電話一三七番　振替口座四一五番

株式會社　朝鮮商業銀行　資本金五拾七萬五千圓（全部拂込濟）　諸積立金二十四萬百圓　京城南大門通一丁目　電話五五八番・六八二番　振替京城一六三四番　一般銀行業　倉庫業　銀行長　趙鎭泰　支配人　豐田明敬　仁川支店　電話八四九番　振替一〇六二番　南大門支店　電話五四四番　振替一七〇二番　平澤支店　振替一六〇六番　本町支店　電話一五八二番　振替二一九四番　東大門出張所　電話一八六三

怒濤の月

小林蹴月作 武内桂舟畫

（三）

義理責め『一』の三

『絹代さん、歸つてらつしたよ。泣いてなんか居ちや見ともないから、彼方へ行つて、お化粧でも爲てらつしやい』

門口の跫音を聞き付けると同時に、繼母は急つ付くやうにして絹代を追立つたのである。

絹代は、歔欷を忍びつゝ、言はるゝ儘に次の六疊へ引退つた。短かい秋の日脚は既う五時を打つと間もなく暮れきつて、身代と共に心細い五燭の電燈は、天井から蒼白い光をぶら下げて居た。

『歸つたよ』

がらり格子戸の開くと共に、先づ主個の鐵枯聲が聞れた。言ふまでもなく、それが絹代の父なのである。

『お歸りなさい。お客樣と御一緒ですね』

『あゝ、役所の歸りにお寄りして一緒にお入來を願つたのさ。さあ、貴方、何卒お上り下さい』

斯う言ひながら、主個は泥靴を脱いで、内へ上るや否、包みの儘の辨當函を妻の前へ投げ出して、小倉服の鈕を忙がしく脫り始めた。

『では、白富さん、御遠慮なしに御免を蒙りますよ』

一緒に來た客人の男は、上り框に帽子と外套と、それから流行の手提鞄を差措き、艶の好いぴんと刎ねた八字髭の尖を輕く捻つて、つか〜と長火鉢の前に坐つた。

『お久、何故敷物を差上ないんだ』と、主個は、そこ〜に和服を着換へ了つて、次の六疊間を覗くやうに見ながら『そして、お久や、絹代は委細呑み込んで居るんだらうね？』

『えい、呑み込んで居るどころぢや御座いません。大變快く承知しまして、今日からでも差支へないと申しとります位ですから……』

『ふーむ、然うかね。それを聞いて俺も大きに安心した』

斯う言つて、絹代の父は、我とにもなく自身の胸を撫で下すのであつたが、然しながら、その顔の上には何とも云へぬ暗い不安な淋しい色が漂つて居た。彼の齢は、見た所丈でも既う六十に間近い容子であつた。半白の頭はその赭色をした額際から、同じ色に澱の如く禿げ上つて、險や口元の筋肉は、ぶよ〜と爲ほど力が緩んで居た。絹代と同じやうな型の撫で肩はみそぼらしくも細くこけて、加之に少し猫背の如く歪みかゝつた脊は、弦をかけた弓のやうであつた。それでも何處やらに卑しからぬ品位！骨格の備つて居るのは流石に昔のゆかしさを偲ばせぬでもなかつた。彼の名は、白富總十郎と云ふのである。

『それぢや、白富さん、お嬢さんが快く御承知下すつたと云ふんですね？』

『はい……只今家内の申しますやうな容子では、確かに合点を致しましたやうに御座います。段々お世話やら御手數やらを相懸けました儀は、私の此の頭に免じて、何卒御勘辨を下さいますやうに……は、は、は。こりや、お久、お前からも能く、松崎さんにお詫を申しなさい』

『いや〜、お詫なぞは決して〜お話さへ圓滿に整ひますれば、是に越した目出度い事は御座いません。主人も定めし滿足致す事でせう』と、客人の男は、極めて如才なき愛嬌の語を振撒き、輕く起つて、手提鞄を持て來ながら『白富さん、甚だ失禮では御座いますが、お約束の仕度金丈は今日、御夫婦の御手許へお預け致して參りますから、至急に三越なり白木なりへお越しになつて、お嬢さんのお氣に適つたのを見立つて進げて頂きたいもんです。なに、ほんの三百圓程です。今後の事に就ては能く主人とも協議を遂げました上で御本人の將來は元より必ず御夫婦の生活向位に御不自由を懸けるやうな事は致しませんから、その點は堅く〜、御安心を願ひたいものです』

と言ふ間に最早鞄の底から、一包の紙幣束を取出し、夫婦の前へ突き付けるやうに差措いたのである。

突き付けられた總十郎夫婦は、嬉しくもあるが驚かぬ譯にもゆかない夫婦は、思はず顔と顔を見合つて、挨拶の語も出しかねて居ると、突然次の障子の蔭から、絹代の咽ぶやうに歔欷く聲が、手に取る如く聞れた

▲毛皮なめし ▲防寒靴
御用命の程願上候
毛皮、鞋商 フッツバー商 京城本町二丁目 日東商會 電話二一二〇番 振替京城一一九番

京都 たまや出張店 本町一丁目 電話一一九六 [illegible]

十夜吟

● 枯菊 浮碧樓

枯菊ぬき捨てし塀を仰ぎぬ
畫の月大きく枯菊にさはる

○ 坡柳

自然薯下へ〜掘り菊枯るゝ
馬の荷に殖く蓮菊枯るゝ

○ 華虹

菊枯るゝ焚火跡の土の乾き

○ 芳草樓

杵懸くる西日明るさの枯菊

○ 鳥堂

枯菊引く鉢の土とあがりし
枯菊の雨の地の脂

□大田湖南吟社句集 時雨

御法主の軒聲高し初時雨 十亭
薫香に法の灯暗し初しぐれ 同
鐵鉢に小錢の音や夕しぐれ 桃雨
時雨るゝや寺領に廣き蜜柑畑 同
移は照るに柏の時雨かな 同

（時雨）

貰ひ乳に寢つかれし子や小夜時雨
百度踏む鳥居に迫る時雨哉
軒通る下駄の齒替や村時雨
しくろゝや火種貰ひに隣の兒
湯豆腐に七味の薫る時雨哉
新夫の宿直に淋し小夜時雨
時雨るゝや胡弓の哀歌消ね去りぬ
開門をせまる馬背に時雨晃
しとゝるや腰に柄なしの傘纏ふ
時雨るゝや大杉に夕日片照り
贅の袞毛の濕る間もなし村時雨
積み藁に一羽の鴉しぐれ晃
不猟跡り美人茶屋にしぐるゝ
灘五郷光琳風に時雨けり
時雨るゝに枯木の小鳥居直る
棧橋のごよむか中を時雨る
湯歸りの軒端傳ひや小夜しぐれ
濡れて身をふる犬や夕時雨
呼びに行きし我子歸らず時雨晃
山芋を掘る穴深し夕時雨
貝灰に交て魚骨や時雨宿
首洗井にうつる時雨の雲停る

十雨 同 中京 同 同 青宵 同 待 同 淡水 同 同 西水 いかり 千里 同 夢樂夫 雅溪 同 江月 月波 風骨 同

讀者の聲

南大門驛の中央の柱に掛つて居る時計は反對に向けた方が入口の方から直ぐ時間が見られて便利じやあないか知ら（時計無し）▲黄金町と南大門通との交叉點の道路工事も此春からだつたがやつと昨今良くなつて通りよくなつたのは毎日通行してる者に取つては誠に有難い（腰辨）▲例年の樣に笠巢覗ひが大分市中を徘徊し出して彼の害者も澤山ある樣だが留守を預る山の神連も水道側會議をあまり召集せんと無要心でイカン（交番査公）▲龍山に若い女が背中に小供を負つて蚊の鳴く樣におろ〜聲で辻占を賣つて歩いて居るが何だか非常に哀れな一マンスの所有者の樣に思はれる（夜廻り）▲二十三日夜朝鮮銀行前で時計を落した方は本町署に届けて置きました（親切生）

新刊紹介

◉山本式味噌搾器 鹿兒島市松前商會發賣の山本式味噌搾器は昨年四月新案特許を受けたるものなるが使用上非常に輕便にて小兒にても容易に使用し得れば家庭必須品として多大の好評を博し居れり今回製作權讓渡し又は一手販賣特約の爲め支配人前田源太郎氏來鮮本町二丁目荒井旅館に滯在し居れり

◉教員養成の講義錄 東京牛込津久戸町の日本師範學會にては兼て教員養成の講義錄を發行せるが從來の師範本科の外本年十月より准教員及び師範入學の準備講義錄を出だし益々好評なるより此際一層規模を擴張せんと準備中の由入會希望者は葉書にて同會宛會則請求せらるべし

▲漢籍國字解全書 早稻田大學十年の苦心に成れる本書は今回の新刊にて全部完結し其和解も流石に善く咀嚼されて痒き所に手の届ける感あり近來の良書と謂ふべし右は本月三十日限り豫約を締切り見本は追て次第送呈すと（全部四編四十、冊數約價四十九圓東京早稻田大學出版部）

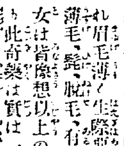
▲料理の友（十二月號）クリスマスの御馳走手輕な忘年會の御馳走、樂しい夕飯の獻立、十二月の臺所用家庭料理の奥義等（二十二錢東京上大崎中丸大日本料理研究會）

▲ランプ●●●●●フオルマシヨン、デキストレーム、オリエン（極東時報）『創刊號』政治、經濟、科學、軍事、美術及文學に關する週刊雜誌にして日佛兩文を以て記載せるもの（十八錢東京市京橋區築地明石町三二極東時報社）

▲日本一（十二月號）金を殺して使ふ日本人『新渡戸博士』總理大臣論『副島義一』室外他『和田垣博士』黴毒檢徹問題公開狀其他（十二錢東京市牛込區神樂坂通南北町）

▲寫眞タイムス（十一月號）天長節祝日の東宮殿下赤ん坊展覽會早稻田球閣の來朝西方前線其他時事に關する記念寫眞多し（二十五錢東京市京橋區新肴町一八明治寫眞版所）

▲宮之研究（十一月號）十錢東京市神田區猿樂町三ノ二共社



嫁入を嫌がる娘 毛の無いのが原因

髮の毛が薄くて見苦しかつたり有るべき所に毛が無かつたりすると年頃の娘は自然憂鬱になつて嫁入り話も嫌がるは同情に堪へざる所なるが是迄のありふれたる藥と違ひ最近に實地に黑い毛の生る人助の奇藥が創製せられ眉毛薄く、生際惡く、禿頭、腫物の禿、薄毛、髭、脫毛、有るべき所に毛の無い男女は皆豫想以上の結果に悦びつゝあり此奇藥は實は一婦人が吾身の上の恥しさ悲しさに想を焦して遂に苦心創製し思ひ通に毛が生えた實驗に基く者にして希望者は東京市京橋區築地一の十八美容堂より子へ宛ハガキで問ひ合さるれば人助けの爲自分の秘密を打明け本人だけに委しく通知する由

月やく

なきに御困りの方は郵券三錢封入左に御照會あれば妙藥しらす
京城黄金町三丁目新道角 山田志づゑ

こゑる藥

身體やせて種々療養効なくお困りの方 胃腸を健全にし身體肥滿となる妙藥の説明書呈 郵券三錢封入申込れ
○東京市麻布區三河臺町 小川藥院

義手足

せきずいのコルセット 大きん玉ナヲス器械 （見本送呈）
新案輕便響丸釣發賣
京城本町一丁目 高野義手足専門製作所 電話一〇六

東京で一番よく賣れる美人となる化粧料は ホーカー液

本品は畏くも宮内省御買上の光榮を有し衛生博にて名譽金牌を受領し到る處の信用ある、小間物店雜貨店にて一番よく賣れる美人劑なり

淋病內服新藥 リヨール

醫學博士 床實驗者無料贈呈
百入 壹圓五拾錢 五〇入 八拾五錢 三〇入 五拾五錢
東京日本橋川瀬石町 リヨール商會
關西代理店 大阪道修町 田邊五兵衛

營業品目

罐詰 乾物 海産物 雜穀 清酒 銘茶
漆器 家具 文具 紙 荒物 履物
金物 農具 石炭 石油 陶器 磁器
洗濯石鹸 洋蠟 日本釜 京城釜 サバリ井 提灯
蒲團綿 中入綿 小袖綿 鐵火鉢 箱火鉢 飯ビツ

（ヤマツ）
仁川新町 津田兄弟屋本店 電話七六二番 振替口座京城三八九番
仁川宮町 津田兄弟屋支店
京城本町 津田兄弟屋支店

一番よくきく アレ止は

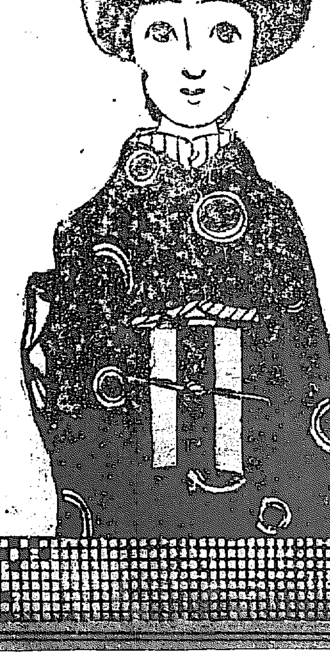
クラブ洗粉 本店謹製の

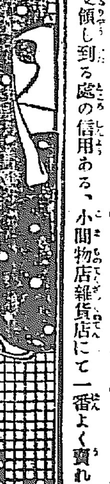
美身 クラブクリーム

此のクラブ美身クリームは素顔の美を増し白粉の附を良くする品質第一のアレ止にして畏くも

皇后宮職御用品

たるの光榮を辱うしつゝあり……





商況 下關期米 [illegible]
大阪期米（廿五日） 安値 一五七三 一五九三 一六四六 止め 一五七二 一六〇〇 一六五五
實物多く漸々に三錢と下押したるが押目は又買物多く下支へたる爲 [illegible]
[illegible] 七錢八錢七錢 二十五日 十一月限 十二月限 一月限 三千六百五十石 七百石 八萬六千六百石 [illegible]